職業婦人



創刊號

大正十二年六月三日印刷納本　大正十二年六月五日發行



朝と食後の

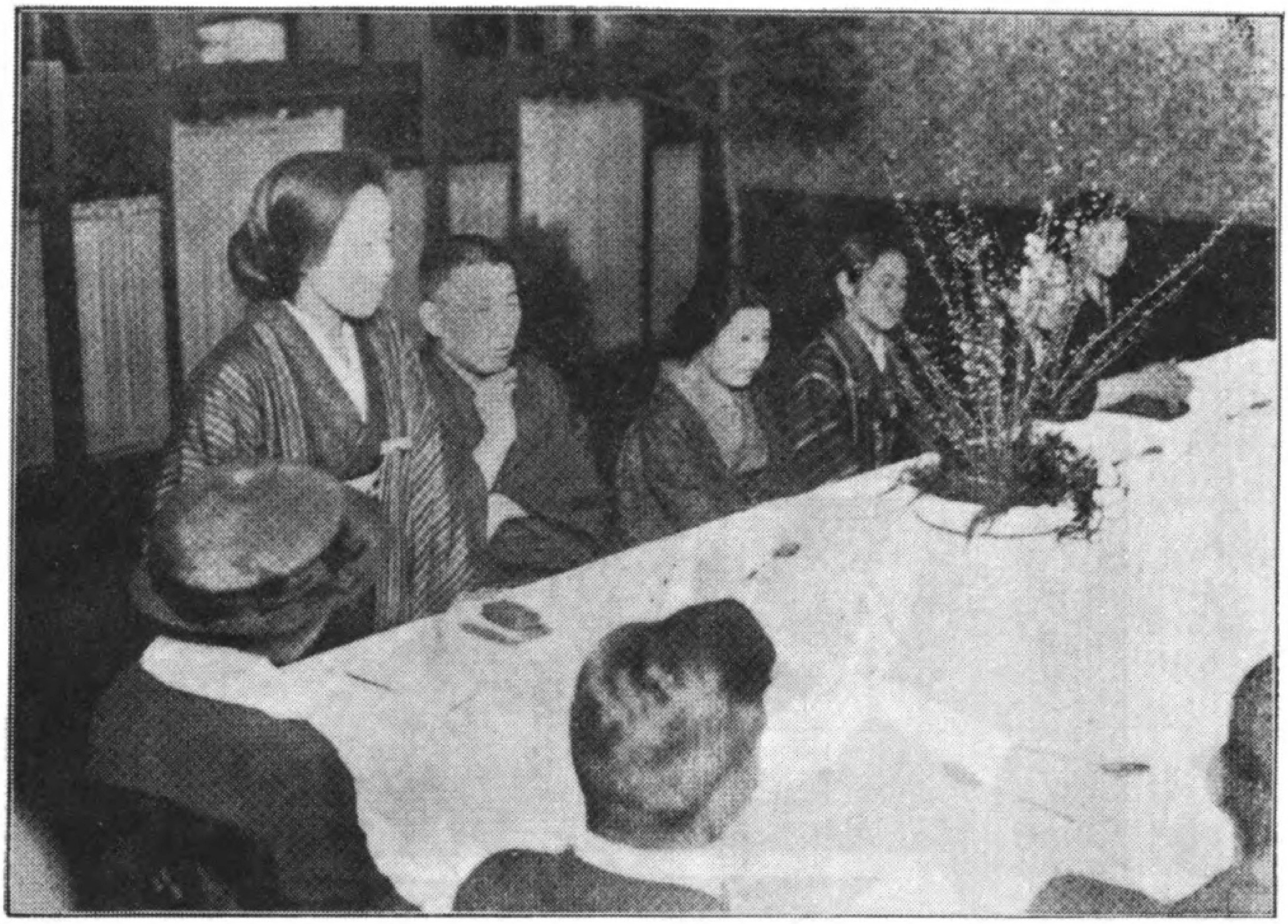
クラブ煉歯磨

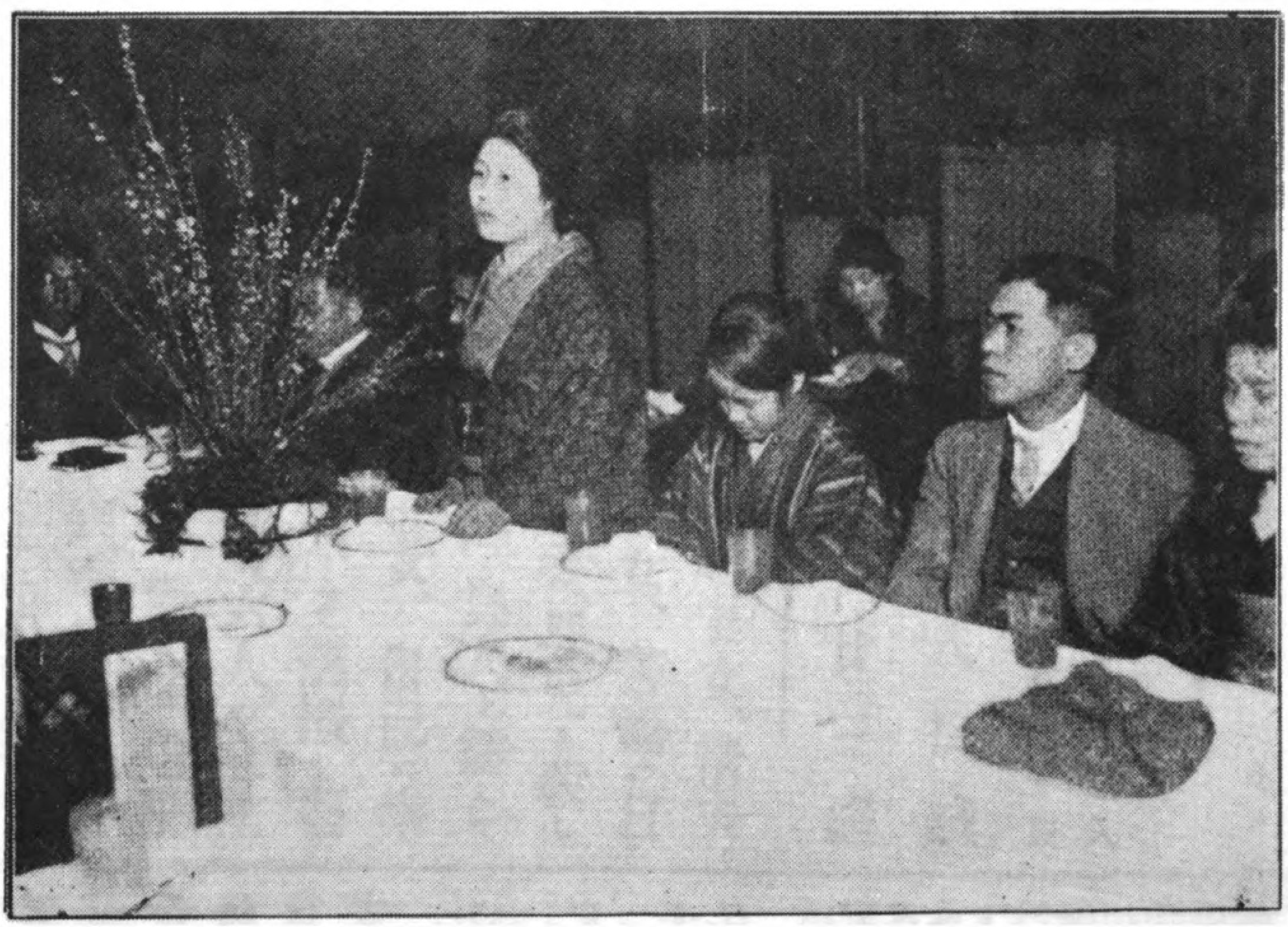


文化生活の高唱せらるゝ現代ではクラブ歯磨が一番歓迎せられてをります……現代科學の最善を盡くして作られたクラブ歯磨が……

◆大好評の押出チューブ入◆

披露會の集ひ





『職業婦人』

創刊號

發行に際して

あらゆる方面にその改造の急を告げてゐる現在の社會で，私たちは長い間なほざりにされてゐた婦人の力を生かすために，互ひに手をつなぎ合つて眞に社會の一員として進みたいと思ひます。今，月刊雜誌『職業婦人』を發行するにあたつて，私たちは自分達の微力が少しでも餘計にこの希望を充たすために役立ちたいと念じてゐます。

職業婦人の問題は，近年急激に社會に現れた極めて重大な問題であります。今日では，人々がそれを欲すると欲しないとに拘はらず，職業に就く婦人の數が日を追つて益々增加しつゝあるといふ事は爭はれぬ事實であります。しかもそのおびたゞしい數に上る職業婦人が，果して如何なる狀態に置かれてゐるでありませうか。

この時にあたつて，現在職業に就いて働いてゐる婦人は云ふまでもなく，所謂狹義の職業婦人でない人々も，等しく婦人といふ名の下に相一致して，この大きな社會問題解決のために協力すべきであらうと信じます。

『職業婦人』は，この目的の下に生れた一つの機關であります。志を同うする人々の支持に依つて，この雜誌の存在が益々意義多いものとなるやうにと願ひます。

職業婦人社の仕事

まづ次の四つから初めます。私たちは出來るだけ手近い處からその準備を整へて，新しい社會の建設を急ぎたいと思ひます。多くの同志の力添に依つて，次第に各方面に及ぼしたいものです。

1 月刊雜誌『職業婦人』の發行
2 研究講座，懇話會，講演會，その他
3 婦人の相互救援（職を求める方，人を求める方も御利用下さい）
4 職業婦人組合の促成

購讀者を募集します

同志の方々は何卒購讀者をお紹介下さい。一人が五人宛紹介して下さるとしても，百人の同志に依つて五百人の購讀者が立ち所に出來るわけであります。
（每月一回一日發行，定價一部金二十錢，必ず前金にて御拂込み下さい）

常務員

千葉ちえ子　吉永文子　奥むめお　村上秀子　矢部初子



婦人と社會

佐野學

一

在來の社會には不平等なことが實に多い。有產階級が生產階級を搾取すること、男子が女子を壓迫してゐること、强大の資本國家が弱小民族を搾取することなどが、そうである。こゝには第二のもののみを觀察しよう。

一體、人世に男女の存してゐるのは、一方が征服し他方がレイゾクするために存してゐるのではなく、兩者が協働するがために存してゐるのである。協働といふことは社會生活上の美しい根本原則であつて、社會を光りあらしめ、繁榮ならしめるために人々が共同に勤勞することをいふのである。過去の歷史上の貴い事實はみな協働から生れたのであつた。しかるに協働といふ原則の他方には搾取といふ原則が支配して人間の歷史を暗くしてゐたのを忘れてならぬ。搾取とは自己の欲望を充たすために他人を手段として利用することをいふのであつて、それは經濟關係にも性的關係にも宗教關係にも表はれてゐる。最初、男女の間には協働のみが存してゐたのであつたが、分業の發生したのち、次第に搾取の原則が浸み入り、女子は生產の生活から追はれ、人生の重要な活動を男子が獨占してしまふようになつたのである。我々は新しい社會制度を作り出し、男女が眞に

協働する狀態を獲得せねばならぬ。

二

男女が眞に協働してゐたのは遙遠な昔のことである。男子が女子を壓迫する狀態は早くより歷史上に表はれた。資本主義時代は人の自由が高まつたやうに見えてゐるが、實は搾取が巧妙になつただけであり、その實質は一層深刻なのである。女子の地位についてもそうである。

今日の女子は眞に男子の伴侶であるといふことが出來ぬ。それは眞に男子の伴侶たることを奪はれてゐるのであつて、女子自身の罪ではない。女子が生産の生活に參加してゐない、否、させられてゐない、といふ事が女子の社會的地位の低下した最大の原因であるが、その點は今日の社會にも甚だ著しいところである。人生にとつて生産といふことが一番尊い。生産が社會生活の基礎である。從つて物質上の富や精神上の富を生産するものが社會生活に優越な地位を占めるのである。しかるに婦人には生産の生活が拒まれてゐる一方において家庭勞働の重荷を課せられてゐる。今日の家庭勞働は甚だ不生産的に出來上つてゐるのであつて、私有財産制度の結果として、家庭經濟が個々別々であるために、多くの冗費と不經濟とが行はれてゐる。

しかし女子が生産の生活に參加するといふことは徐々に始まりつつある。職業婦人といふ新しい社會群の生じたことはその一つである。無産階級の女子が賃銀勞働者となり、女子勞働者といふ一系統を構成するに至つたのもその一つの表徵である。職業婦人も女子勞働者も生活苦のために發生してきたものであるが、その動機はとにかく、女子の將來における勝利の第一條件を完成したものと言はねばならぬ。

三

然し一口に婦人と云つても、その屬してゐる社會階級によつて、個々の婦人の受けてゐる壓迫の程度には差異があるのである。今日貴婦人と稱する有閑婦人は放縱な自由を享樂してゐるが、職業婦人や無産階級婦人は日々の糧の爲めに勤勞してゐる。從つて婦人の間にも社會的地位の間隔が生み出されてゐるのである。これは階級制度の存在するが爲めに外ならない。此故に婦人が徹底的に一樣に解放せられる爲めには、社會階級制度の變革を必然に伴はねばならぬのである。

元來、階級制度は人間相互が同一水平線上に立つ關係ではなく、上下の關係、支配被支配の關係である。それは經濟的搾取の爲めに發生した關係であるが、同時に男子の女子に對する支配を維持する道具でもあるのである。何となれば經濟的搾取を維持する私有財産制度は同時に男子が女子を支配する道具になつてゐるからである。結婚を見れば私有財産制度の女子に及ぼした影響が最も顯著に判る。

此故に上下の關係たる階級制度を變革して人間相互を同一水平線上の關係に還元することは經濟的被搾取者たる無産階級を解放する所以たるのみならず、また婦人を徹底的に解放する所以である。

四

被搾取者が自己解放運動として所謂る社會運動の戰場に出づるに至つたことは、近代の社會の最も著しい現象である。婦人が社會運動に加はるに至つたことも必然的に起るべき現象であつた。

婦人が婦人の政治的經濟的權利を主張するといふことは正しい事である。あらゆる社會運動は常に現實的意義を帶びねばならぬ。現實問題から解決して行くことは忘れてならぬ戰術である。然し婦人の社會的地位の解放が婦人のみにて遂げられるのでないことを記憶する必要がある。換言すれば資本主義の崩壞とプロレタリアの勝利とが婦人の徹底的解放に欠くべからざる條件なのである。一切の婦人運動はこの根本目的を充分に認識した上において、戰術を編まねばならぬのである。この根本目的

は闘爭によつて遂げられる。闘爭によつて解放へと云ふことは社會運動上の約束である。それは婦人運動においても當然に行はれなければならぬ。前に述べた如く婦人運動も他の社會運動と同じ様に現實問題の解決から歩を進めて行かなければならぬが、その現實問題についてプロレタリア的意義を附し、同時に闘爭的意義を帶ばしめねばならぬ。この意味において中産階級的運動を以つて終始する婦人運動は到底私どもの贊成し得ない所である。

婦人運動として最も重要な意義を帶びてゐるものは職業婦人の運動及び無産階級婦人の運動である。それは階級意識の鮮明となり得べき條件を最も多く備へてゐる。それは必然的に男子の無産階級運動と聯合すべきである。そして男子及び女子の運動が合してプロレタリア運動の全陣營を形成すべきであらう。壓迫されてゐるもの程、資本主義否定の感情と連帶的情緒と新社會を熱望する精神とを有してゐる。ヨーロッパにおいても覺醒した婦人運動者は往々男子よりも強く、正しく、勇ましいさうである。婦人の將來には解放といふ大いなる事業が横はつてゐるのである。その將來は希望に充ちてゐる。

【支那婦人の叫び】　音樂學校にをる王淑英さんはなか〱の女權論者で此度び次の三箇條の問題を掲げて全支那婦人を糾合してその第一線に立つさうである

一、男女間一切の不平等の限界を打破すること。
二、婦女にあらゆる學業教育を平等に解放すること。
三、婦女の經濟の獨立を促すこと。

同志は目下五十三人あるとか。

【英國婦人辯護士】　英國の婦人辯護士アイ●エム●レムリヤ女史がこの程やつて來た「日本にはまだ婦人辯護士がないさうですが婦人の辯護はやはり婦人の辯護士でなければ被辯護人の眞の心は判らない」と語つたさうな。日本でもおひ〱は婦人辯護士が出來なくてはなるまい。

御存知てすか

資本制度の驚くべき浪費

◇强制的の怠惰

資本制度は、恐慌の安全瓣と戰爭の息抜きとで、僅かに存在をつゞけてゐる。一定の期間ごとに、莫大な富の破壞を行ふことによつて、僅かに繼續せられて居る驚くべき浪費の制度である。

恐慌の起る度に、そして慢性的の恐慌とも云ふべき不況期の襲來するごとに、多數の勞働者は失業して、强制的の怠惰を强ひられる。彼等は、働くべき意志がありながら、生産機關が他人の所有に歸して居るばかりに、勞働の機會が得られない。莫大な勞働力は全く浪費せられて仕舞ふ。

◇産業の豫備軍

かような勞働力の浪費は、恐慌の場合には最も著るしく現れるが、しかし、平時でも、資本制度はかような勞働力の浪費なしには存續することが出來ぬ。資本制度の下では先づ一定の需要があつて、然る後に、これに應じた生産が行はれるのではなくて、生産は多かれ少かれ投機の性質を帶びて居る。そこで市場の變動につれて、生産は絕えず動搖し伸縮する。そして生産が一伸一縮する度びごとに、多數の勞働者は工場に吸ひ込まれるかと思ふと、忽ちにして失業者としてちまたにはき出される。かように資本制度の生産が自由にばうちやうしたり收縮したりする爲めには、斷えず多數の失業者が、産業の豫備軍として、勞働市場にあることが必要である。そしてこれは云ふまでもなく、社會全體に取つては、容易ならぬ勞働力の空費を意味して居る。然るに資本主義の生産は、この不經濟と浪費なしには、一日も存續することが出來ぬ。

◇經濟的の無政府狀態

資本制度の下では、社會の全員を養ふ爲めに、これこれの品物がこれだけ必要であるから、これだけの生産機關と勞働力とを振り向けてその品物を生産するといふ譯ではなく、何等の計畫も統一もない謂ゆる經濟的の無政府狀態であつて、これを支配してゐるものはたゞ個々の資本家が最大の利益を收めようとする欲望である。これは謂ゆる自由競爭であつて、その結果として資本制度の生産には、强制的の怠惰——失業——による勞働力の浪費以外にも、尙ほそれ以外の驚くべき浪費が行はれて居るのである。

◇無益な品物の生産

資本制度の下では、失業の爲めに莫大な勞働力が浪費されて居ることは暫くおき、現に働いてゐる勞働者のうちでも、實際社會に取つて必要な生産に從事して

居る者は極く少數であつて、多くの勞働力は無益に浪費せられて居る。その證據には歐洲の大戰爭には、各國の政府は多數の勞働者を從來の仕事から取り去つて軍需品工場に使用したにも拘はらず、必要品の生產は、これが爲に少しも減じなかつたと云ふことである。これは平時に澤山の勞働力が無益な事に使はれて居つた證據である。

◇必要な生產の制限

その外、資本家や金持の個人的の必要や欲望を充たす爲に使はれてゐる人員は驚くべき多數に上つて居るが、是等の人々は、何かしら勞働なり勤勞なりしては居るものの社會全體に取つては全く必要のない仕事をして居るものであるから、同じく勞働力の浪費を意味するものである。

資本制度の下では、必要のある物が生產せられるのではなくて、買手のある物が生產せられるのであるから、社會全體に取つてさほど必要でない奢侈品や贅澤品や、ないしは積極的にな有害品物の生產の爲めにも、バク大な生產力が用ひられて居る。そして全て是等の生產力の浪費の結果は必要品の生產をそれだけ制限することゝなる。是等の生產力は必要缺くべからざる品物の生產に振向けられるものであり、また當然振向くべきものである。ところが資本制度の下では、是等の必要品が缺乏して居るにも拘らず、バク大な生產力は、無益な品物の生產や、無益な勤勞の爲に浪費せられて居る。そしてそれだけ、社會全體にとつて必要缺くべからざる品物の生產がさまたげられ制限せられて居るのである。

◇競爭の浪費

生產力の全然の浪費は暫く別として、現に必要品の生產に用ひられて居る勞働力のみに就いて見ても、今日の生產には驚くべき浪費と不經濟とが行はれて居る同じ品物を生產するにも、澤山の競爭會社があつて、是等の會社は各々別々の建物を持ち、別々の動力を持ち別々の計算を持ち原料の仕入れと製品の販賣の爲めにも、別々の機關を設けて居る。また別々に專門家を使つて、お互ひに隱し合ひをして生產技術の硏究をもやつて居る。そこで原料や勞働を節約する發見や發明がされても、他の會社では同じ發見や發明をする爲めに、同じ經費と勞力とを費さねばならぬ。日本の紡績業などでも互ひに女工の爭奪をする結果として、全くの不熟練工たる女工を募集する爲にすら一人前七八十圓から百圓以上の募集費を使ふて居る。

これについて面白い實例がある。一八九五年に米國製釘工場の合同が組織された時には、全國の製釘工場には、需要額の四倍の釘を生產するだけの製釘機械があつた。また米國にウヰスキー會社の合同が出來た時には、八十の釀造所のうちで、僅かに十二だけで優に需要に應じ得ることが分つた。砂糖業もその通りで、四

十の製糖工場のうち十八工場が破産したので、殘りのうちの十八工場が集まつてトラストを組織した。そしてその內十一工場を閉鎖し、七工場だけで充分に需要額の生産をすることが出來た。これと同じ事は、トラストや合同の行はれる場合には、常に經驗せられて居る事柄である。

これは何事を語るであらうか。云ふまでもなく、資本制度の下では、生産に統一と計畫とがなくたゞ利益を追ひ求める資本家の競爭に任ぜられて居る結果として、工場なり、機械なりが、――即ち生産機關が――充分に利用せられて居らぬことを物語つて居るのである。

此の一事によつて見ても、資本制度には最早や生産機關と勞働力――即ち社會の生産力――を充分に利用するする能力が無いことが分るのである。

◇商業の浪費

かように浪費と不經濟とで出來上つた品物を、交換し流通する段になると、資本制度の浪費と不經濟とは一層驚くべきものである。

今日商品の流通――即ち商業――に費されてゐるバク大な資本と勞働力とは、大部分は無用の冗費であつて、社會主義の經濟制度では、當然節約せらる可きものである。どの地方にも大小の都會があるが、是等の都會に軒を並べてゐる商店と、その從業者との九分九厘までは、社會に取つて何等の必要もない仕事をして居るものである。市街の兩側に浪費の制度たる商店が軒を並べて居るのを見て、何人も不思議とせぬ程に、資本制度の下では、浪費は日常普通のことゝなつて居る。

◇廣告費と販賣費

生産物を賣る爲に費されて居る浪費のうちで、最も甚だしいものは廣告の費用である。米國では一八九九年には新聞雜誌の收入は一億七千五百八十萬弗であつたが、一九〇九年には三億三千七百六十萬弗となり、十年間には九割二分の增加を示した譯である。然るに一八九九年には、廣告料は全收入の五割四分四厘であつたが、一九〇九年には六割に增加したのである。また英國では、曾て石鹼工場の合同が組織せられた時、「デイリー・メール」紙は一ヶ年二百萬圓の廣告料が減るといふので合同に反對した。その後の調査によると、合同の結果、新聞の廣告料は一ヶ年五百萬圓減つたといふことである。

新聞の廣告料は、廣告費のほんの一部分であつて、新聞雜誌の廣告以外にも、到る所に天然の風致を損してゐる看板廣告や俗惡な電氣仕掛けの廣告などを見たら、資本制度の販賣方法が、如何に浪費を意味して居るかゞ分る。實際の生産費用よりも、廣告費の方が澤山掛つて居る品物は今日は決して珍らしくない。賣薬とか化粧品とか、その他主として廣告の力で販路を開いてゐる特殊な品物は暫らく別としても例へば書籍のやうなものにしても、著者に支拂ふ原稿料の少くとも二倍か三倍は廣告費になつて居る。ある

有力な雜誌では、印刷費と原稿料を總計したものよりも、遙かに多くに廣告費が掛つて居る。そこで本屋の店頭で五十錢の雜誌を買ふて讀む人は、その內の少くとも三十錢は、その朝の新聞で廣告を見た料金に支拂つてゐるのである。廣告以外にも多くの販賣員を出したり、定價表や說明書を送つたりする費用などを計算に入れたなら、資本制度の商業が如何に高價なものであるかは直ぐ分かる。そして是等の費用は、結局は皆な需要者が支拂つて居るのである。

◇資本制度は不經濟

資本制度がそれ以前の經濟制度に代つたのは、社會の生產力を一層有効に利用する制度だつたからである。然るに今日では、資本制度は最早や社會の生產力を充分に利用することが出來ぬ。否な今日では驚くべき浪費と不經濟の制度になつたのである。

かように資本制度は物質上の浪費の制度であるが、更に資本制度に含まれて居る人間の浪費、精神的の浪費を考へたなら一層驚くべきものがある。

新刊紹介

◇ヘーベル婦人論　（山川菊榮譯）

云ふまでもなく婦人運動の經典にしてまた重要なる社會主義文獻の一つたるベーベルの『婦人と社會主義』の全譯である。ポイント組四六判七五〇頁の堂々たる大冊である。內容は婦人の過去、婦人の現在、國家と社會、社會の社會化の四編三十章より成り、單に婦人問題のみでなく、社會主義の根本理論の全般にわたつて、考證論議されてゐる。社會主義を研究する者の是非一度は讀んで置かねばならぬ書物の一つである。

（定價四圓五十錢　アルス）

×　×　×

◇日本經濟史概論　（佐野學著）

早稻田大學の講議案をまとめられたものであつて序論古代日本の經濟生活、中古日本の經濟生活、中世日本の經濟生活、近世日本の經濟生活の五編より成る。說明の少い代りにより多くの事實が記錄されて居り各章每に參考書も掲げてある。斯學に興味を有する者の第一に讀むべき好著である。

（定價二圓四十錢　泰文社）

◇社會主義とは何ぞや　（島中雄三譯）

◇レーニンの社會學說　（淺野研眞譯）

◇直接行動論　（島中雄三譯）

◇總同盟罷業の研究　（植田好太郎著）

以上いづれも文化學會パンフレットの一つとして出版されたもの定價各册四十錢



職業婦人の起つべき時

伊藤夏子

一

宗教的慈善運動を除くの外ほとんど婦人運動の見るべきものがなかつた日本においても、最近になつて、雪に埋れた北國に春が訪れた樣に一時にあらゆる婦人運動の芽が伸び始めた。

男子の專制に反抗して敎育の自由、職業の門戸開放、參政權の獲得等を求める女權運動、あるひは歐米では此の女權運動より約半世紀以上の時日を經て起つた母權運動、更らにまた無產婦人の權利擁護を目的とする勞働階級の婦人運動等、梅も櫻も牡丹も藤も皆一時に咲き出た有樣である。

二

婦人が生產的勞働に從事して經濟的獨立を得ることが婦人を解放する重要な條件であることは云ふまでもない。此點では女權論者の主張は正しい。がその主張がいれられてもそれは單に中流婦人に敎育職業の門戸開放をもたらしてこれ等の婦人を資本主義的競爭場裡に追ひやるにすぎない。高等な敎育をうける資力のない無產婦人の大衆には、高等な敎育がなければ就けない職業の門戸開放等は問題にはならない。

今年の一月、女權論者等の婦人參政同盟が出來てから參政權要求の運動が大分活氣づいて來た樣である。歐米先進國では既に婦人自身が婦人を支配する立法の判定にあづかるのを至當として、あるひは完全に、あるひは一定の制限の下に婦人に參政權を與へてゐる。世界の大勢上、日本でも早晩婦人が參政權を得るに相違ない。その時には日本においても、今から三十年前既に參政權を得てゐたカナダを始め歐米先進國におけるが如く、婦人が政治に關連して男子と同樣の成績をあげ

得ると云ふことを上流出の婦人が示してくれるだらう。雀のお宿の議會へ送られた婦人代議士が男子の堂々たる政治家の如くに美事に雀のお役目をつとめるだらうと云ふことも想像され得る。がそれによつて母たりあるひは將來母たるべき多數の無產婦人の生活がよくなるものとは考へられない。

三

日本において無產婦人の手によつて始めて起された運動は無產階級運動の一部である社會主義運動としてであつた。

「社會内において婦人の占むべき地位及び婦人が社會の有用な一員となるためにその力を充分發達させるにはどうしたらよいかと云ふ婦人問題は今一つの他の問題、壓制、搾取、悲慘、窮乏をなくし個人及び社會全體の肉體的精神的の幸福をもたらすには社會にどういふ風に組織されねばならないかと云ふ問題と全く一致する」とベーベルは云つた。かくの如き信念の下に進む急進的な人々は、婦人特殊の利害と云ふ事だけに重きをおかず男女共通の利害のために戰ひ人類の開放を目的とする社會主義の運動に這入つたのである。ところが社會主義者と云へば泥棒や人殺しの様に恐ろしい者とおもはせられて來た一般の日本婦人にとつて、この種の運動は餘りにかけはなれた近よりがたいものにおもはれたに違ひない。この運動は無產婦人を代表する勇氣に富んだ人々により無產婦人全體の進むべき方向、目的等を示す、無產婦人運動の指針となるが、運動の性質から云つて大衆的運動とはなりにくい様におもはれる。

四

これに反して多少改良主義的色彩を帶びるにしても、勞働婦人に最も痛切な目前の問題、賃銀の値上げ、勞働時間の短縮、夜業廢止、母性保護等について戰ふ組合運動は一般的の運動になり易い。

婦人組合運動が最も早くから發達してゐるのは英國で五十年前「婦人勞働組合同盟會」が組織されたのを始めとして今日に及んでゐる。これに次ぐのは米國で二十年前に組合が作られてゐる。最も古く最も組織立つてる英國の婦人組合運動は男子のそれと別々に發達して來てゐる。婦人は單に婦人なるが故に生產力や社會的價値とは無關係に、決定的に男子の職業賃銀率に比して婦人の職業賃銀率が低いと云ふ世界共通の悪習慣のため賃銀の低い婦人勞働は、賃銀の高い男子勞働の競爭者となり、男子賃銀引下げ手段として利用されて來た。組合運動の最も發達した英國ですら職業賃銀率は凡ての產業を通じて男女別々のものである。しかして生活費の暴騰に際して賃銀を値上げする場合にも、婦人は男子先優權や家族扶養の義務がないとの理由の下に男子と同様の賃銀の値上

けを斷行されたことがなかつた。その結果婦人勞働者の排斥、男女間の競爭も烈しかつた。米國の婦人組合運動にもその傾向が少くなかつた。

婦人が全く組織されずに居る場合はもちろんのこと、あるひは婦人のみの微力な組合を作つて男子より、安い勞働を提供することは、味方の無産階級男女間に職業の奪ひ合ひや、賃銀の値下げ等を起していたづらに無産階級の陣營を分裂させるに過ぎないと云ふごとを、戰前の英米の婦人組合運動の苦い經驗が示してゐる。

ドイツにおいては婦人の組合加入を排斥することなく、職業別、產業別の組合組織につとめたのでこの弊害が少かつた樣である。

五

五ケ年にわたつた世界戰爭は歐米婦人運動の一轉期となつた。戰後における婦人參政權運動の成功は中流婦人問題を解決すると同時に戰前振はなかつた無產階級の婦人運動をして婦人運動の中心とせしめたのである。赤色勞働組合インタナシヨナルは、婦人のみの組合の設立に反對し在來婦人を排斥して來た組合を開放すること、男女賃銀の差等の廢止、婦人勞働者の保護に關する規定の實施、母親及幼兒保護施設の擴大等の問題のために努力することを全世界の勞働組合へ申送つたのである。

日本では極めて僅の工場勞働婦人が男子の組合へ加入してゐるのみで婦人のみの組合は未だない樣である。(昨年神戶に女給組合が出來たと聞いたが)外國の婦人組合運動に改良的色彩の濃厚なものがあつたり、中流婦人を指導者とする勞資協調的なものがあつたにしても、今後生れんとする日本の婦人組合運動が必ずしもその模倣に出るものとは考へられない。が併し婦人であるから婦人のみの組合を作らなければならないと云ふ理由はないのである。性別に關しない產業別職業別の組合組織は男女の階級的一致をたすける上に有効ではあるまいか。婦人に限る職業、あるひは婦人を多數とする職業例へば、產婆、看護婦、電話交換手、女中等にあつては、米國の女中組合、交換手組合の如く婦人のみの組合を作つて、勞働條件の改善につとめるのは必要なことである。その場合にも一般の職業婦人を包括する組合よりも職業別の組合の方がよいとおもふ。いづれにせよ、おくれて起る日本の婦人組合は外國の婦人組合運動の成巧失敗の經驗を參考とし、最も新らしく最も良い組織や方法をえらばねばならないのは云ふまでもない。

六

世の中は上をみてもきりがなく下をみてもきりがないと世

間の人はよく云ふ。それ程多くの階級がある樣に見えてゐる世の中も、せんじつめてゆけば結局金持と貧乏人、支配者と被支配者の二大階級よりないのである。今日自ら資本をおろして事業を經營せずして職業に從事してゐる者は、工場勞働者であらうが官吏であらうが筋肉勞働者であらうが頭腦勞働者であらうが皆自分の勞働力を賣つて生活する無產階級に屬してゐるのである。無產婦人とは日雇人の妻君や娘のみを云ふのではない。勞働婦人とは紡績工女のみのことではない。女教員、女事務員、女醫、サンバ、看護婦、女店員、タイピスト等の職業婦人の中には自分は中流婦人であるとか、女工の樣な勞働者ではないとか妙な自尊心を持つて居る人が少くないがこの考へ位馬鹿氣たものはない。健康を損ひ讀書の時間もない程働いて得た收入の大半を衣服や裝飾品に費して、一日も早く職業婦人の足を洗つてあそんで美しい着物のきられるところへ嫁入りしたいとでも思ふ人があつたら妙な自尊心にもましていやしい心情ではあるまいか。

婦人が一定の職業を持つて生產的勞働に從ふことはあくまでも正しいことである。たゞ現在の如き社會制度の下にあつては、長い勞働時間や劣惡な勞働條件が婦人の健康を損ひ、安い賃銀がその生活を低いものにする。

婦人に開かれた職業部門に對して日々に殺倒する職業婦人の大衆は、彼等に迫るこの危險に身をさらして平然として居られやうか。一人々々の女の力は弱いが、團結し組織されて行動する時にには、その力は非常に强くなる。男子の組合に加入するが便か、あるひは職業により、產業別、職業別の婦人のみの組合を組織するが可なるかこれ等について互ひに研究し討議せられんことを希望する。工場勞働婦人も事務員もタイピストも交換手も看護婦もサンバも一切の職業婦人は彼等の健康、母性、生活等のヨウゴのために今こそ起つべき時である。

君を送りて

波瑠子

みごもれる姉につき來て裏山に
豆引く晝や牛鳴居たる。

×

最後には聲も出し得ずたゞ一つ
うなづきしまゝ君を送りし。

×

かしましきラッパの音のいらだゝし
キネマ歸りの風强き午後

職業婦人の歴史的地位とその將來

中村さだ

人類の過去にあつた長い期間の共產制は原始的な生產器具を用ひて居たので原始共產の社會と云はれてゐるが、たとへ原始的であるにしても、他人の爲に自己の勞働を搾取されることがなかつたのですから、人類は何等の不平不滿もなく生活してゐました。もしあつたとすれば、たゞそこにあつたのは不平不滿でなく不安と恐怖とであつたのです。野獸に對する恐怖、食物の缺乏に對する不安です。然し野獸に對しては、共同に防禦の道を講ずるし、食物の缺乏は共同に働いてこれが補充をしたのであります。それでその時代には、社會的不平不滿といふことは何もなかつたので生產器具の發達程度に比べて見れば、人類のうけた幸福は實に大きかつたのであります。ところがこの原始共產制が破壞されてきて、全く社會の組織が變つてしまひました。

卽ち私有財產を基礎とする社會組織になつたのであつて、私有財產制の確立はドレイ制の確立と時期を同じくしました。然してドレイとして最初のドレイは實に婦人でありました。原始共產制の社會は一面から見れば、女性中心の社會です。此處に女性中心だと云つても女性が男性を搾取したり征服したりするのではなく親子の關係が母を中心とし、あるひはまた男が女を選ぶのでなく、女が選擇權を有してゐたと云ふ意味であります。ところが原始共產制度に移る時代は、卽ち男が自己の父たる資格と肉體上の力とを自覺したので、婦人はだん〳〵男性の前に忍從の膝を屈する樣になりました。婦人は性殖分娩といふ生命懸けの、重い仕事の外に、男子と等しく他の仕事においても、殘虐にコキ使はれて來ました。更に進んで人類は異民族を征服してその生產物を奪ひ取つたり、あるひは異民族を征服してドレイとなし、その勞働によつて生產されたものを享樂することがわかつて來ました。要するに人類社會が征服者と被征服者の二階級によつて、組織される樣になつて來たのであつて、征服者は被征服者の勞働を搾取しながら、あらゆる優越をほこり、あらゆる便利と利益を享樂するやうになつたのであります。ギリシヤ、ローマの昔から廿世紀の今日までドレイの骨を以つて築かれその血を以つて塗られない文明といふものは絕對にありません。婦人は

そのドレイの中でも、最も多くの重い負擔と、苦役とを負はされて來ました。婦人はかくして共產制時代における、あらゆる自由を失つて、社會はすべて征服階級の男子の支配の下に組織されて來ました。男子は婦人に生活飼料を與へてこれを家畜の如く養つておきます。クジャクがその羽の色を誇りにすると等しく、家庭と云ふ鳥籠に飼はれた婦人は常にその飼主の爲に、羽の色を氣にしなければなりません。ところが歐洲に起つた產業革命は遂に社會組織に大變動を與へる樣になりました。產業革命とは申すまでもなく近世的な大規模の機械の發明及利用による生產組織の變化であります。土地が最も重要な生產機關であつたのが、それよりも工場が重大なる生產機關となつたのであります。土地が最も重要な生產機關であつた時代は土地働本主義、即ち封建時代であつて、土地の所有者たる武士貴族がその時代の權力を握つてゐました。その時代には、婦人はもとより獨立の經濟力を持つて居ないので、あらゆる虐待と酷使とに屈從して居なければなりませんでした。ところが土地資本主義たる封建時代から工場資本主義とも言ふべき今日の資本主義の時代になると、婦人の地位に多大の變動が起つたのです。

近世資本主義組織は必然的に農村の住民を都會に集中せしめて、勞働力を搾取するに便利な樣に出來てゐます。資本家は最も安い賃銀を拂つて最も高い利潤を得やうとあせる。そこで男子の賃銀給料によつて生活し得られなくなつた婦人は必然的に職業を得なければならなくなつて來ました。この現象が婦人職業運動であります。婦人職業運動は決して一部の人々の言ふ通り、婦人が自覺したと云ふ主觀的方面から見るべきでなく、生產組織の變遷に伴ふ必然的の現象であつたのであります。

ノラが人形の家を飛び出す背後の重大な意義はそこにあります。ところで職業運動は、婦人運動の第一步であつて婦人は職業によつて、自己の生活を保證し、それによつて、夫なり親なりの支配をまぬかれ樣とするのであります。然るに資本家が安い勞働力を要求する限り、職業運動は必ず成功する。あたかも飢えたる狼の前に脂ぎつた肉をなげ出すのと同じで、資本家は、婦人の勞働力といふ御馳走を見捨てるはつがないのです。然し職業運動によつて多くの職業が婦人の前に解放されたと云ふことは、他の方面から見ればそれだけ婦人の勞働力を搾取する場面が擴大して行つたことであつて、從つて職業によつて經濟的獨立をなして居ると云ふ婦人は家庭のドレイから一步出世したと云ふだけであります。依然として被征服者であり、依然として非獨立者であつて、正しい意味での獨立者は、今日の社會には一人も有り得ません。

私は今婦人運動の第一段として職業運動が現はれた事を說きました、そして特にその運動が婦人の自覺といふ主觀的立

場からのみ見るべきでなく、婦人を動かして職業を求めさせた社會的原因即ち生産組織の變化といふことが重大だと云ふことを力說しておきました。職業運動によつて社會的に、活動し出した婦人は、第二段として、經濟運動に進んで來ます。それは收得した經濟的立場を自ら、政治的にようごし發達させる爲の必要から生ずる運動であります。

歐米の諸國においては既に婦人代議士まで送り出して居る有様で、日本においても將來の婦人代議士を、夢見てる人が、ぼつ〳〵現はれかけて來ました。然しながら私達はこゝで考へねばならぬ事があります。生産組織の變革こそは社會の根本動力であつたことです。いくら婦人が多數の代議士を送り出しても、いくら勞働組合からその代辯者を多く議會に送り込んでも、それで問題の解決がつくでせうか。婦人代議士をそれ程多數議會に送ることが、第一困難なことで、よし一歩ゆづつて多數の婦人代議士を送り得たにしても今日の議會政治に加つて何を爲し得ませうか。それはたゞ夫に帶をねだつたり着物をねだつたりすると同様な事を、大じかけにして見るだけに過ぎないのであります。私は婦人がドレイ化した根本原因が私有財産制にあることを幾度か繰り返しました。私達は婦人の解放運動が職業運動から參政權運動と進んで居る方向では決してこの根本原因をなくすることが出來ないことをさとらねばなりません。何故かと云ひますと私有財産制によつて利するものは、財産を所有する人だけです。財産とは生産機關のことであつて、その財産を所有してゐる者と、所有してゐない者とが一緒になつて、何を相談する事が出來ますか。雙方から妥協の付くまでは妥協するかも知れませんが、然し根本において利害の相反するもの同志、即ち二個の階級は結局闘爭によつて解決するより外に道はありません。婦人解放の正しい方向は勞働階級の運動、無産階級の運動とその方向が一致しなければなりません。即ち等しく私有財産制の廢止によつて、共同の目的を達するからであります。

私有財産制が婦人をドレイ化した根本原因でありました。しかして私有財産制であればこそ、自己の勞働を他人に搾取されるのであります。婦人も勞働者もこの點において相一致するのであります。それなれば私有財産制をそのまゝにしておいて參政權を論じ母性保護を論じても不徹底不滿足なる解決に導くより外にないのであります。然らば私共は私有財産制を如何にすればよいか。廢止すればそれでよろしい。廢止する方法はたゞ利害の一致する無産階級の男女が團結して、資本家の手から社會にとり返すより外に道はないのであります。

世界の無産階級及婦人は、實に貴い實例を地球の一角に實驗しつゝあります。その國では婦人は男子と同等の、あらゆる社會的自由をうけて居ます。そこではもう母性保護も參政

権も問題ではなくなつて居ます。どうしてその國では、婦人がそれ程の自由を獲得し得たか。云ふまでもなく私有財産制の徹廢によつたからであります。要するに婦人を解放するものは共産制度であつて、その制度を實現する爲に婦人は勞働者と共同利害にあるもの故、一致團結して資本家と戰はねばならぬのであります。

勞働者が團結を唯一の武器として勞働組合を組織すると同樣に、職業婦人も解放戰の陣列に加はる密集部隊即ち組合を持たねばなりません。ばら／＼な散兵線では直に殘虐な資本家の馬蹄にジユウリンされ蹴散らされてしまひます。立派な組織と團結より成る職業婦人組合、勞働婦人組合を作つて、一般勞働組合と協同の戰線に立つより外に婦人運動の進むべき道はありません。私共はこの爲に私共の力を合さうではありませんか。そして無產階級の解放、婦人の解放の日を一日も早く來たさうではありませんか。それがまた、とりもなほさず人類全體を幸福に導く道であります。

（四十二ページよりつゞく）

るでせう。私は婦人の職業といふ事に絶對の讃美をさゝげる事を惜しみません。

職業婦人の使命は大きいと思ひます。毎月一定の月給をもらふといふ簡單な意味ではないと思ひます。

そこに含まれた無限の意味、それらは、此『職業婦人』に依つて、次第に雄々しく育てられてゆくでありませう。

時代の要求によつて生れた此新らしい雜誌の前途をかぎりなく祝福したいとおもひます。

（四十七ページよりつゞく）

密になり合ひたいと思ひます。諸外國のモホウや、抽象議論から初められる輕薄な運動は、つひに私たちの心を充たしてくれません。私たちは、何事も私たち自身の足許から初める事にしてゆく／＼はこの雜誌を中心にして意氣相投じた人々が力強い一團となつて、勇敢に、建設的な運動に就くやうにと期待してをります。どうぞみなさん、御盡力下さい。

我が國の女子職業に就て

—(數字上から觀た)—

梅山一郎

數字上のみからものを觀ることは、餘り冷やゝか過ぎると思はれても仕方がない、新聞紙に例へると、戀愛だの社交だのに關した美しい寫眞や記事の載る社會面に比べて、數字を表はさずには一行も書けない相場面のやうなもので、書くものは仕事だからと思ふて書くが、讀む方では餘程直接關係のある者でないとてんで眼を通してくれないと同じやうなものだらう。それに職業婦人の問題は、獨り專門家が机の上で研究したり、または社會改良家が演壇で放吼してゐればいゝと云ふ特種な問題ではなく、あらゆる民衆の問題でありあらゆる家庭の問題であり、一日改善を怠たれば一日多くの若い女性が、生命と人格を牛馬の如く虐げられてゆく傷々しい現實の問題であるだけ、この問題は改善や要求や希望や理想の點から觀ると、假令慷慨家でなくとも、感情的に叫ばねばならぬ問題を數多含んでゐる。然しまたひるがへつて考へて見ると、職業生活は、人間生活の中では最も理性と意志を要する生活で、一時の昂奮や感激で何うすることも出來ない世界であることを承認するならば、全く感情の入らない數字上から我が國の女子の職業を觀ると云ふことが、强ちカンサウ無味な相場面を作り上げることでなく、あらゆる人達に興味を起すに足るものだと思ふ。

◇全國の職業婦人の總數

殘念ながら日本の政府には、勞働婦人課も婦人局もない爲に、これ程大きな問題に就てまとまつたものは一つも無い、それでも農商務省に關係する工場法適用の、五十人以上の職工を收容した、全國の工場の女工數や、文部省に屬する女教員の數や、免狀を授ける關係から內務省の臺帳にのる助產婦、看護婦の數や、その他遞信省、鐵道省に使用する婦人從業員の數は、大體前年度までの者は判るが、旅館とか、テパートメントストアーとか、大小の銀行、會社に使用される店員や

事務員の數は、正確に調査されて居ない、隨つて次に舉げる全國職業婦人の總數も、女店員、料理屋の女中、事務員、タイピスト、交換手等の、商業方面の從業員の数に推測のあることを、豫め承知を願ひ度い。

先づ職業婦人を、その仕事によつて分けて、事務や技術や精神的の業務にある者を、精神勞働者とし、身體を以つて働らく者を筋肉勞働者とする、そこで全部の職業婦人の數は、どの位あるかと云ふに、大ザツパに「四百萬人」と云ふ人もあるが市の神田橋の中央職業紹介所が非常な努力を以つて、集めた材料によると「三百五十八萬一千百八十三人」と出て來た、この數字をや、眞に近い者として、筋肉勞働者と精神勞働者とに分けて見ると、前のが二百六十六萬一千二百八十一人で、後のが九十一萬九千九百〇二人となつた。割合はざつと前のが三、後のが一になる。更に筋肉勞働者の方を内譯して見ると、一番多いのは農作、園藝、牧畜、養蠶、搾乳等に從事する。農業方面の勞働婦人である。その數が百三十一萬五千九百二十三人、筋肉勞働者の約半數だ。こゝに斷つて置かねばならぬのはこの百三十一萬人は家業の手傳ひとして、農業に從事するもので無くて、所謂地方で一年とかまたは三年四年の間、奉公人として雇はれて勞働する女子の事である。若し賃金を取る取らぬを別として勞働に從事する農村婦人を擧げれば、全國の女子の人口二千七百萬人の、約半數一千三百五十萬人はスキ、クワを揮つて勞働してゐることを忘れてはならない。大正九年の農商務省の調べによると、農村の狀態は自作農が三割一分で、小作農が二割八分自作農兼小作農が四割一分であるから、先づ大地主の令嬢が高等女學校を出て土いぢらずに、嫁入る位で、他はことごとく働らく婦人である。小作農の娘はほとんど町の工場へ女工として買はれて行くか、でなければ、農業勞働者として自作農の家庭へ雇はれて行く、自作農と自作兼小作農の娘は外には雇はれて行かないが、我が家の勞働者として働らくと云ふ具合で、地方には、都市におけるやうに、全然製産の仕事にあづからぬ婦人は、千人に一人も居ない。

農業勞働婦人に次いで、數の多いのは各工場に働らく女工と、鑛山で金鑛や石炭を掘る鑛婦である。兩方を合せると九十八萬人だ、即ち筋肉勞働者の三分一を占めてゐる。その内女工が八十七萬千八百人で、鑛婦は十萬八千二百人だ、鑛婦の中でも、その過半數の六萬六千人は、石炭鑛婦として働らいてゐる事を記憶せねばならぬ、それでも鑛山に働らく鑛夫の四十三萬九千百五十九人に比べると未だ四分の一に過ぎないが、女工に至ると男工四に對して六の割合になつてゐる。大正九年の農商務省の統計によると、職工總數百七十四萬二千五百九十一人で、その中男工が八十七萬一千三百七十七人、女工が八十七萬一千二百十四人であつた。この統計の内に

は、官營工場や、工場法の適用されない工場の分が入つてゐないので、男女工の數がとん〴〵になつてゐるが實際は女工の方が多いのだ。この内でも、製絲女工が二十八萬九千六百二十二人、紡績女工が三十九萬一千百九十二人で、八十七萬人の所約七十萬人は紡績と製絲女工で占めてゐる。日本の女工問題は、當然この種の女工の改善から手をそめなければなるまい。外國の例によると、女工の數は男工の約半分に過ぎないさうだ、日本において女工の方が多いと云ふ事は、男工よりも女工の方が廉く使へると云ふ賃金の問題に關係があることに、注意を拂はねばならぬ。その次は鮑や蠑螺や海草を採る水産の勞働に服する海女である。これが全國で三十二萬四千十二人、家庭において女中とか、派出婦と云ふ名で働らいてゐる家事使用人は、九萬一千百二人、土木工事や建築工事の下働らきに使はれてゐる勞働婦人が一萬二百三十人であつた、以上は何れとも女子の筋肉勞働者に擧ぐ可きものである。

次に世間で所謂職業婦人と一口に言つてゐる全國における女子の精神勞働者の總數をさぐつて見やう。此の方面で一番多いのは、女醫、助産婦、看護婦、官吏、女教員、社會事業家、宗教家、藝人、記者、藝娼妓等の公務自由業の部類で、これが全國で四十二萬九千五百四十四人と算へられた。その次は前にも斷つて置いた通り少し推測的な所があるが、商業方面の女子從業員で、これが約四十萬人の見當だ。その次が通信運輸業に携はる職業婦人で、三萬一千百十二人だ。通信運輸方面の女子從業員は、ほとんど鐵道省と遞信省管下の從業員である。商業方面は、女子の販賣人と、銀行會社の交換手や、事務員やタイピストと保險會社の事務員、料理屋旅館の女中や女給等が主なる者である。農商務省が大正九年に調査した六大都市の女子の商業從業員は、十七萬四千二百四十九人であつた。しかもこれは、十人以上の雇人を使つてゐる商店會社に問ひ合はしたものだから、漏れてゐる部分がかなりあるのと、全國的には六大都市だけなので他の都會を交ぜるとその他をざつと二十萬人と推測して、四十萬人と云ふ大體の數が出てゐることを承知願ひ度い。

公務自由業の内譯を、最う少し細かにして見ると、醫事に關した中では看護婦が一番多くて三萬四千七百八十一人、その次が助産婦の三萬五十五人である。順に女鍼灸按摩が、二萬六千五十五人女醫四百四人女歯科醫五十六人、女藥劑師が百人である。これは内務省の大正九年の調査による。全體は九萬一千六百十五人になる。醫事に次で、多いのは女教員である。これが矢張文部省の大正九年の調べで六萬六千七百二十一人であつて、その八九分通りは小學校の女教員が占めてゐる。尋常、高等小學と類似學校を交ぜると、五萬八千二百八十一人になる。その他の高等女學校女子師範學校實科女學校

の女教員は、四千二百四十七人に過ぎぬ。補習學校の女教員が二千四百四十四人を算へた。その他はずつと數が減つて社會の公務に携はる職業では、婦人社會事業家、女探偵、女記者、女速記者、官吏等が東京だけで見て社會事業家二三十人、婦人記者四十三人、女探偵四人、女速記者十人と云ふのだから全國的に見てもその數は推して知る可きだ。またこのグループよりも基督教傳道師、佛教の住職、神道の布教師、女監取締、教誨師等の宗教に屬する有職婦人の方が多い。大正九年文部省の調べによると一萬二千九十八人あつた。技藝とか娛樂とかの方面に屬する、例へば女優、踊子、三味線彈、琴彈、尺八、琵琶師、義太夫語、落語家、講談家、浪花節語、法界節等の女藝人を算へると、一萬一千七百十一人と云ふ多きに上る。それからこゝにも調査のしやうがなくて判然しないが、大勢の働らき手があるだらうと推測さるゝものに、美顏術師、女髪結、女理髪師がある。女髪結の機關雜誌を發行してゐる「すがた社」が六大都市のこれらの種類の職業婦人を調べた所によると、二萬五千人はあつたさうだから全國には十萬以上を數へるだらうとは、これも推測だが忘れてならない大きなグループだ。社會の裏面に働らく藝娼妓酌婦が職業婦人であるか何うかは別問題として、以上何れの女子の職業よりもより以上婦人解放の問題に、觸れる重要な問題なのでこのグループにどの位多くの婦人が働らかされてゐるかを、數の上で見て置かう。大正九年內務省の調べによると、全國の藝妓の數が七萬九百四十六人、娼妓が五萬七百五十二人、藝妓兼娼妓が三百九十人、酌婦が六萬七千八百二十二人で合計十八萬九千九百十一人であつた。

◇東京の職業婦人の總數

あらゆる職業婦人を網羅する事と、時代の新らしい職業婦人は、必らず東京から開拓されて行く事から見て、東京市內の職業婦人の調査は、全國を縮圖にしたやうなもので、興味が多い。この調査は、大正九年十月に行はれた國勢調査の申告書によつて市の統計課が作製したものだから、これは先づ正確なものであらう。總人口二百十七萬三千二百人の中、男子は百十七萬百八十八人それに對して女子は百萬二千十二人であつた。男子の方が約十七萬人も多いので男子が百人ゐると女子が七十五人ゐる譯になる。いつたいに、日本は英佛のやうに、女子が澤山生まれない國であるが、特に東京の人口がかやうに男子の著しく多いのは地方から都會に集中する者が女子よりも、男子に多いからであることはいふまでもない。そこで最も興味のある事は、これ等の人口の內何人働らいて、何人が養はれてゐるかと云ふ問題である。そこで有職者の數を調べて見ると、男子は八十二萬二千九百七人で、有職の婦人は十九萬七百五十五人、合せると働らいてゐる人間

が、百一萬三千六百六十二人ある。更に養はれてゐる婦人は全體で、八十一萬千二百五十七人で、男子は三十四萬八千二百八十一人合せると百十五萬九千四百三十八人であるから、この働らく人間の數と養はるゝ人間の數の割合をとつて見ると有職の者が四割六分六厘で無職の者が五割三分四厘である。これを百人に直して働らく者が百人ゐると働らかない者が、百十四人・四ゐる譯で、結局平均一人働らくとその收入では働らく自分を交ぜて二人・一割四分しか養へない事になる。これは一家の主人公の收入がだん／＼大勢の家族を養ふ力を失ふて來ることを示すものである。明治四十二年即ち大正九年の今から、十年前の市勢調査によると働らく人間百人に對して、養はれる人間百二十八・三であつたことを見ても、十年間に百人働らいて十四人養ふだけの力を失ふたことが判る。これを米國の全土の同じ例に比べて見ると、彼の國では一人働らくと、三人・一を養ふ力があるさうだから、東京市より生活難が輕いとも云へるが、英國では一人・八割七分しか養ふ力を持たぬさうだから東京市よりも少い譯だ。しかし何れの國でも主人が一家を扶養する力を漸次失ひつゝあると云ふことは明かな事で、最近職業婦人が、續々殖えて來る原因の七八分通りがこゝにあることは、見脫してならぬ事實である。それと共に無產婦人は結婚前はもちろん結婚後妻になつても母となつても賃金勞働者として働らき續けなければならず、また自ら中產階級知識階級と自認してゐた中流家庭の女子も、先づ内職から漸次就職するやうになり、寧ろ今日ではこの階級の妻母までが生涯賃金勞働を續けなければ一家がなり立たないと云ふ破目に陷ち入つて來た。職業婦人の問題を考へる人はだれでもこの數字が語る事實をよく玩味して見るがよい。

東京市全體の有職婦人は、前にも出た通り十九萬三千八百四十九人であつて、その中筋肉勞働婦人が七萬三千八百四十九人、精神勞働の婦人が二萬六千四百七人である。この二つは共に賃金勞働者であるが、湯屋とか旅館とか待合とか女髮結看護婦會等を經營してゐる獨立業の獨人が一番多くて、九萬四百九人あつた。有職婦人ではないが男に扶養されてゐなくて財產で食べてゐる有產婦人が五萬三千三百八十二人もゐる等は流石は東京である。今度は觀方を變へて、筋肉勞働者たると精神勞働者たると、獨立業を營むとの別なく、工業方面と公務自由業の方面と商業方面と運輸交通の方面の四つに分けて見ると、第一の工業方面には、三萬九千三百十九人、その中で一番多いのは被服工場に勤める女工であつた。その數が六千四百七十五人。次は紡績工女で六千百八十九人、次で印刷女工の二千七百六十三人、機械女工の二千五百十五人、化學工業の工女が千五百八十五人、製紙女工が千三百三十二人、その他の順でほとんど九分通りは女工であるが、女事務

員も總計では、工場内に千四百八十五人ゐる。第二の公務自由業の方面は總計で五萬五千三百九十二人に上り、その內女醫女藥劑師、女齒科醫、看護婦、助產婦等の醫事方面に携はる職業婦人が八千百八十九人、その次に多いのが女學校及び小學校教員保姆等で二千六百六十二人であつた、その次は官署の官吏女子の雇員で、これが、千二百八十二人女、優畫家音樂家遊藝人等が千百九十九人、女傳道師五百人、婦人記者四十三人、その他病院劇場寄席官署學校教會寺院等に働らく雜用婦と云ふ可き者が、三萬六千五百五十人、第三に商業方面は全部で五萬三千九百九十五人である。一番多いのは物品を販賣する婦人で、一萬百九十二人であるが大部分は、獨立の營業主で、使用さるゝ女子は女店員を主とした、千二百四十四人位に過ぎぬ。その次は、旅館浴場を經營する婦人で、八千八百五十九人藝人が二千百七十二人、銀行金融に携はる事務員等が八百人、その他の商業が、二千二百五十八人で、この方面の筋肉勞働者が約三萬人を算へた雜役婦掃除婦旅館料理屋の女中女給等がその主なるものである。第四の運輸交通の方面は全部で、五千四百九十一人その內に筋肉勞働者が二千二百八十一人、精神勞働者が八百四十三人だ。前のは列車の掃除婦等で、後のは鐵道省の事務員、タイピストあるひは各驛の出札係等である。餘り細かく煩はしい事を書き續けて來た頭を變へる爲に東京の有職婦人十九萬三千八百四十九人の中、自主獨立の有職婦人を脫いた十萬二百五十六人の使用階級の職業婦人の內容に就てざつと書いて見やう。

◇精神勞働婦人の現狀

筋肉勞働婦人を代表する女工の問題に就ては世間に相應の調査も研究もあるからこゝでは省いて、所謂世間で職業婦人と呼んでゐる精神勞働婦人の現狀を、これは東京市社會局保護課の林かつ子女史の手によつてまとめられた大正十一年度と云ふ調査によつて大づかみだけを紹介する。これは林かつ子女史が各銀行や會社や學校や役所に調査書を發して希望通り解答して來た小學校女教員、タイピスト、交換手、女事務員、看護婦、女店員六種の職業婦人九百人に就ていろ／＼の方面から眺めて半年がゝりで出來た統計である。

先づ結婚の關係を見ると九百人の中七百五十二人は、未婚者で既婚者は僅かに百四十八人に過ぎない。然かも、この大部分は小學校の教員であることから見れば、未だ精神勞働婦人の職業は結婚前のものだと云ふことが判る。亞米利加の職業婦人が未婚六割既婚四割に對してこの未婚八・三既婚一・六の對照は、未だ日本の職業婦人の若い事を敎へる。この事實が一定してゐる以上、統計を待つまでもなく、次のやうな問題はすぐ見當がつく。先づ就職年齡を見ると十五歲から五十歲までであるが、一番多いのは十八歲から十九歲二十歲二十

一歳の四年代で、十五歳から十七歳までと二十二歳から二十四歳までがほゞ同樣で、二十五歳になると急に比較にならぬ程減じて仕舞ふ。全體の七割一分五厘が二十五歳までゞ二十五歳以上は僅かに二割九分五厘だ。また亞米利加の職業婦人の年齢に比べて見ると、彼の地には二十五歳までが四割五分で、それ以上が五割五分である。やがて日本でも結婚年齢が遲れても、世間が何とも思はなくなるやうになると共に、二十五歳を越ゆる獨身の職業婦人が殖えてゆくだらうと思はれる。この年齢に關聯して職業婦人が押しなべて、何年間位勤務するものか、この調査によると一番多いのが三年間で、次が一年間二年間四年間と行つて、五年間が分水嶺になつてにわかに少なくなる勤務年限の長いことは、その技術の熟練にかゝはり、延いては賃金に關係して來る問題であるが、女子職業の發達は、勤務年限をなる可く長くせなければならぬと、一口に言ひ切つてもこれもあれも女子は職業に依らず結婚によつて生涯くふてゆく途を求めなければならぬ現在においては當然の結果であらう。

されば就職の原因を尋ねて見ても、一家の生計の補助をする爲と云ふのが九百人中四百七十一人で、半分以上を占むる。經濟的の獨立を得たいと思ふて就職した婦人は百六十人、嫁入り支度と云ふのが二十人、趣味修學費を得たいと云ふのが六十六人で、扶養の爲と云ふのが十七人その他が六十六人である。次に取つた收入がどんな風に使はれてゐるかと云ふのに補助なしに自分の月給で衣食住共に支拂つてゐる者は、二百五十二人で、三百六十四人は月給だけでは足らず衣服代や化粧代や食代の何分かは親から補助を受けてゐる者である。最も一部を家庭に入れて一部を自分が使ふと云ふ半獨立の女子が百八十二人、全然自己が獨立するのみが一人と少しの割合、母なり妹なり我か子なりを育て養ふてゐる健氣な職業婦人も、この中に百〇一人を算ふるのだから、職業婦人の强味は充分認めなければならぬ。少し書く順序が逆さまになつたが彼等九百人の收入はどの位であるかと云ふのに、俸給平均は三十八圓九十六錢と出た、之に夜勤料等の雜收入の平均六圓九十二錢を加へると總收入の平均が四十一圓十二錢になつた。最も此中には七八十圓から百圓近くの古參な職業婦人が大勢ゐての計算であるから、まづ一年から三年まで位の勤務年限では雜收入を別にして三十圓から、四十圓位の月給をとる職業婦人が一番多いと見てよい。更に今度は此等の職業婦人の教育程度に就て調べると約六割は尋常小學校と高等小學程度の卒業生で、高女出及半途退學生が二百人職業學校出が百五十二人、專門學校出が三人、その他であるから充分の技術才能のある職業婦人が未だ多くないことが判るが、今後は袴さへ穿けば女事務員になれると云ふ簡單な考でなく、高女出が普通で職業學校出身が幅を利かす時代にならう。それか

あらぬか彼女等の知識欲修養熱に燃えてゐることは一並ではない、この願を滿すに足る團體や機關を求めてゐることも確だ。未婚の若い職業婦人は、親睦、娯樂、修養の機關が欲しい講演講習で頭が練り度い休憩時や休日に運動の出來る設備が欲しいと叫び、既婚の職業婦人は、子供の遊園地托兒所が欲しい、よい女中が欲しい、外に出る時夫婦そろふて出られる住宅が欲しい裁縫炊事洗濯を社會の仕事に依賴し度いと願ふ。之も市の社會局の調査の希望條件の中に書かれた最も多くの人の共通の問題である。日本の職業婦人の前途が何う發展してゆくか數字上から觀た我が國現在の職業婦人の事實は、行き詰つた女子の地位を漸次開展しつゝあることを、敎へてくれる。擱筆するにあたつて若、文中に數字上の誤謬があつたならば、調査された方々の間違ひでなく、私が作つた誤謬であることを斷つて置く。

(完)

新刊紹介

マルクスの生涯と學說

(西雅雄譯)

マックス、ベーアの名著 Karl Marx, sein Leben und sein Lehre の反譯である。今篇は主として五篇に分かれ、第一篇、第二篇及び第三篇においては、それ〳〵マルクスの、修業時代マルクス主義の形成、運動と波瀾の時代を述べ、以て無產階級革命の理論的研究にその一生を獻げた偉大な思想家の生涯を全體として極めて雄健にゑがき出して居り。第四、第五の兩篇は專ら學說の解說に充てられて居り、その社會學的方面においては、先づ唯物史觀の理論を述べ、これに基いて階級闘爭、及び、階級意識の說明を試み、現在における階級闘爭が必然的に無產階級の獨裁にまで進展すべき所以を明かにして居る。またその經濟學方面においては、マルクスの經濟學說の出發點としてのリカルドの價値論に筆を起し、マルクス獨特の價値論、剩餘價値論、平均利潤率の問題を論じ以つて資本主義的生產制度の必然的に崩壞せざるべからざる所以を研究の對象として居る。全體を通じて極めて簡致な、齒ぎれのよい文章で書かれて居り、山川均氏もその序文において「マルクスの學說を解說した著述は少くないが、私はベーアの小著を推すに躊躇せぬ」と言つて居る。譯文は精密なる逐字譯により、有益な附錄を附して居る。われ〳〵は、本書が同志西雅君の手によつて反譯されたことを感謝すると共にあへてこれを江湖にお薦めしなければならぬ (定價一圓五十錢・三德社)

職業婦人としての私の不平
不滿、抱負、喜び、希望！

○――『職業婦人としてのあなたの立場から見た不平、不滿、抱負、喜び、希望といつたものについての御感想なり意見なり』を創刊號におよせ下さい――との問合に對する諸家のお答

◇

松村よし子

私は電話の交換手をして居ます。仲間の人達は交換手に見られることを恥ぢて出來るだけ女學生風に眞似るのに苦心をしてゐます。貧しい親を助けるのは親孝行であると教へられ、働くことは善いことであると云ひきかされて來た私は、僅な金を得るためにこうして働いてゐる私共を世間が馬鹿にするのにおどろきました。小學校で教へた修身の文句は皆うその皮です。働いてる私どもが、親の金を使つて學校へゆく女學生の眞似をしたがるのを世間では虛榮心が强いのだと申します。けれども世間の人が女學生と同じ樣に、交換手だと云つて馬鹿にせずに取扱つてくれたなら、こんなみぢめな虛榮心なんかなくなつてしまうでせう。働くことは立派なことだと云つておきながら働く人を馬鹿にして、あそんで居る人達を大切にする世間が私には不平で仕方がありません。

◇

前田とし子

「職業婦人」の創刊を飛びたつやうに喜んでゐます。「貴社よりおはがきを頂いて、その御返事としてよりは、むしろ御教へを願ふために返事を書きました。

私は田舎の郵便局に勤めてゐます。此處には、女子の事務員が八人と男子事務員が十人居ります。女は主に電話交換と切手賣りをして居ます。しかし男子事務員はいつでもいやな用事やめんどうな仕事は、女にさせるのです。しかし、今の所、女事務員に男の御機嫌取りが多いので、不愉快ながら泣寢入りにしなければなりません。こうした事は現在の男性支配の社會ではまぬかれぬことでせうかそれとも婦人の自覺によつて男子專制から解放され得ませうか？　現在の樣な制度である以上は男子の御機嫌取りをする女子の絕えることはないでせうか、誌上で御答へを希望します。

◇

林ふく子

希望の一つ。男女が共に働く、いづれの場處にも必ず男女別の洗面その他の附

厠室を設備して戴きたいものです。此の別室は一時の間にあはせと云ふ様な物でなく、入口、出口の全然混同しない男女各專用の別屋である事を欲求します。重役專用と一般人用、高等官用と下役員用の區別よりも、男女別の區別の方がはるかに大切な事と存じます。男女對等の立場が明かにせんとする職業婦人は尙更、人間の性別を認め互に尊重して自重致したい。

◇

田中ゆき

私は切角、親切にはがきをもらつてもかきつけないから思ふ事はいつぱいあつてもなにもかけません。それに二十疊の室に五ショクの電燈が一つあるきりなので手紙をかく事さへ、なか〳〵よういな事ではありません。苦しいことはたくさんあるけれど、ことに病氣の時、工場内の醫員だちの冷いあつかひになさけなくなります。また、こんなことといふのは恥かしいことですが、食物に、ほとんど滋氣の少いことで、まづくもいゝから、滋氣のあるものが欲しいです。

◇

井出とし

一、不平不滿の點を大別して先づ經濟的、衞生的、道德的の三つにすることが出來ませう。今日の報酬賃銀が果して完全に一個の女を獨立せしめることが出來るでせうか。また長い時間無法な机腰掛に縛りつけて、ヒヤ飯辨當に何等運動營養の設備もなく、酷使される職業婦人の肉體が損はれずにゐるでせうか。丈夫な時は一生懸命に酷使して、病氣にでもなれば、お拂ひ箱といふ雇傭狀態に何處に人格的な交涉があるでせうか。

二、希望と抱負。日一日と姉妹の覺醒して行く事がうれしい。すべての勞働が人類進化のための歡びと變る日の來ること。

持ち過ぎて損はれて居る者、餘りに貧い爲に損はれたる者が、完全な人間となる爲に努力したい。

◇

西川文子

どんな職業でも每日してゐると、他人の及ばぬ程その道に徹する事が出來ますで職業婦人として立つてゐると、何かしら賢くなります。家庭婦人も子女教育、家政のとり樣、自己研究の態度を、職業婦人の樣な緊張した心持ちで爲さねばならぬと思ひます。私はこの二つを程よくとり入れて家を見ながら日々本を讀んだり、雜誌が出されたりするのを感謝してゐます。

◇

金子りき

職業は小學の教師、不平に思ふことは一、學校の修業年限は、男子と同一であり、卒業後、學校につとめれば、男子よりも裁縫と云ふ課目を餘分に受け持たされ、受持時間は男子より多くても少ないことはないのに、經濟的には月給が男子よりも少く、道德的には男子に許される

ことが女だからと云つて罪となり、何十年眞面目につとめても男子の樣に校長になることが出來ないことです。金のもらひ高が少ないとか、校長になる地位が得られないとか云ふ事を考へるのはさもしいと思ふ獨りよがりやがないとも限りません。併しながら單に女であるからと云ふだけの理由で努力や仕事のねうちは問題としないで、報酬や待遇に差別をつけるのは正しいこととは思へません。希望することは、

一、全國の女教員たる姉妹達が自己の權利擁護のため、性別による經濟的社會的道德的差等の撤廢のため互に手に手をとつて戰ふことです。

◇

黑崎ゑつ

現今の社會組織において益々激增する職業婦人について、婦人自らの立場から充分の調査を遂げ改善を期することは目下の急務ですから、この雜誌の創刊を衷心から喜び多大の期待を持つて居る者であります。

私は女教員として大なる不滿があります。それは既婚者と未婚者との優遇法に關することで、私は次の樣な差別ある待遇方法が、一日も早く實施される樣に努力されないではならないと思ひます。卽ち、

既婚者には時間的優遇（幼學年擔當）。

未婚者には物質的優遇、（研究と修養向上の道を開くこと。）

公平に見ていやしくも不合理、腐敗と見らるべき事は、盡く打破しなければならぬと思ひます。

◇

守屋東

一、婦人の職業として働きも收入も、少しも割引きなしになりたいと思ひます

一、婦人としてだけでなく人として、不平を言ふ前に充分義務を行ふて行きたいと思ひます。

◇

江田いせ子

お惣菜を配達する會會社など名からして女のする仕事らしいです。とに角會社の一員として考へてみますと職業に就いては男女の差別はない樣ですが婦人としてはあくまでも優しく、努とで戰つて行きたいものです。

私は營養食料品研究會の主事として特にさう感じます。

◇

中野榮子

田舍の小學校教員はあはれな者です。學校の中では校長に絕對に服從しないではならないし、校長はまた村長や村會議員の顏色ばかり伺つて居るのです。ですから村長の子供は馬鹿でも優等生になつて、小作人の子供達を自分召使でもある樣に俾ばり散して居ても、是を制することが出來ない先生が多いのです。これはどこの村の小學校でも見られることだ

らうと思ひます。私は、小學校教員が皆同盟してこんな悪い風習をやぶつてしまひたいものだと希望して居ます。

◇ 井城あさ

私は某病院に住みこんでゐる女醫です不平に思ふことは次の通り。

一、大して忙しくはないが、だらだらに仕事があつて働く時間は制限がなく、僅かの金で夜中の眠る時間まで體が自由に出來ないこと。

二、醫科大學を除いては修業年限は男子の專門學校と同じであるにもかゝはらず、月給はその二分の一であること。

希望することは、

一、男女の性別による報酬の差等の廢止。

二、働く時は目がまはる程忙しくてもよいから、互に交代し合つて休息の時間自分で自由に使へる時間が持ちたいこと

◇ 關谷多喜子

職業婦人としての私の立場、それは、實に神聖な美しいものでございます。なぜなら職業そのも此のがの上ない貴い生きたものですから。私共に云はせますと不平不滿どころか實にその日その日を感謝と希望とにみちみちた心持ちで愉快に送つて居ります。

併し人間生活の内には、幾多の波瀾もあり、困難もあるでせうが、是等すべてから超越して、ある目標に依つて强く生るのが眞の意義ある生活ではないでせうか、私はこの目標を職業的興味に見出して居ますので、私共同性の職業紹介を致します上においても親切丁寧の全力をさゝげてその方の幸福になる樣に盡して居る考へでございます。

◇ 河本龜子

私が最も遺憾とし最も不滿に考へる點は自分の周圍の人々がその職業または學業の本質と價値について公平な理解のない事です。

それでも私の所では比較的そう云ふ心持ちの人は少いやうですが、それでもまだ中には婦人の職業と云へば一も二もなく蔑視すると云ふ風な人々がないではありませぬ。

それはたとへその職業が如何程重要な事柄であらうとも單に婦人が携はると云ふ概念の上で低廉な取扱ひを受けて居ると云ふことは、第一事業の進展上悲むべき事だと考へます。かゝる性別を撤廢した人格的平等の待遇を與へなければ婦人が婦人としての力量を遺憾なく發揮する事は出來ないでせう。人はその責任感によつて義務の遂行が果されるのです。故に社會的差別待遇を撤するに非ざれば婦人としての、人としての社會的價値を發揮する事は到底不可能だと考へます。

もつとも中には私の樣に力量が乏しく

修養が足らないで平等の待遇を與ふるに足らないものもありませうが、それとても仔細にその人物と事業と職業とを三つどもえにして考へて観ると取つて捨てるわけに行かない潜熱的勢力家も多數にある事を信じます。

◇

松江靜子

働く事は苦しくはないが寂しい事です なぜならばオフィスの人達の持つ不平も怒りも皆忍ばなければなりませんから。皆が人を見るのに初めから疑ひの眸で見ますから。他人を皆自分と同じ者に見たがり、自分と同じ者にしたがりますから。

オフィスの人達がもつとデリケートな氣持ちで他人の世界をみつめてくれたらと強く感じて居ります。デリケートにみつめてほしいと希望して居ります。

オフィスで印字機の仕事をして居る傍ら私は折々、アマチュアの私演のステーヂなどに出ました。

で、私を見るオフィスの人達の疑ひの眸に向つて、もつと他人の世界に對してデリケートであつて下さいと叫びたい時が澤山あるのです。此の事が私のさびしい不平で、そしてデリカシイの生れるやうにと云ふ事が一つの希望なのです。遂げられない希望ですが。

◇

高城その

タイピストの生活にも大分慣れて來ました。朝八時から晩までの勞織にも、以前程疲れなくなりました。給料も婦人の職業としてはよい方でせう。しかし勉强して英語に熟達しやうなどゝ望んだのは今になつて見れば夢です同じ様な英文を打ち續けて居るので家に歸つて英語の本を見ると、食べすぎた天ぷらの樣にうんざりしてしまつて、とても讀む氣になれません。私の希望は、日曜日にでも面白い有益な知識を與へて下さる樣な會合の出來ることです。貴社で職業婦人のために開いて頂けないでせうか。

◇

富路子

『職業婦人』。おゝなんと感じのいゝそしみてなつかしみを覺えさせる御本でせう。たゞ名稱を伺つただけであかるみへ出た樣な心地がします。一日も早くその內容を見たうございます。そして一歩一歩と導いて頂きたうございます。終りに益々御社の御發展を祈り愛讀者のより以上多くなります樣お祈りして筆をきます。

◇

三村夏子

私の職業は小學校の敎員です。今の學校につとめてから三年になります。始めの中はかうしたら子供の爲になるだらうあゝしたらよく覺えてくれるだらうと、種々考へたりくはだてたりしましたが、今はそんな元氣はありません。敎員のすべつたのころんだのと考へて居てはパンにありつけません。子供を敎へる事より

校長の機嫌をとること所謂處世の術に達してゐなければ小學校の教師もなかなかつとまらないものです。萬能なのは金のみの世の中にあつてはひとり小學校教員に限らず中等學校、大學の先生でも飢え死なない爲には金がいるし、お金をとることが教育事業より大切なのは云ふまでもありません。私も早くこの僞善的な商賣から足を洗ひたいのですが、別に私に出來さうな職業もないので、くつついて居ます。希望にもえて學校を出る若い人達が一度社會にふみだせば年來の望みを一切すてゝ食ふ事の心配を何より先にしなければならない樣な現代の社會制度に對して不平を抱かずにはゐられません。

◇

野原欣子

現在女として職業婦人として男子に對する不平不滿はかなりに胸に溢れて居ますがそれより先きに同性の方（一部分の人であるかも知れませんが）の虚榮と云ふ事を脱して頂きたいと思ふのですそれも現存社會のけつかんかも存じませんが職業婦人にふさはしからぬ身なりをしてゐるのに驚かされます。職業婦人も女です。潤のある女と云ふ事を忘れずに、虚榮と感情に走らずに、内部を堅固にしてそれから男子に對行して行きたいと思ふのです。

◇

高橋千代子

書く方より、らくであらうと豫想して自ら志望した新聞社の廣告部は、すつかり裏切られて書く方がどんなにくかと云ふ事を知りました。併しとても勤まら・ぬだらうとの社長夫人の言に意地が出てともかく可也の成績を上げました。如何に至難な仕事でも熱心と努力によつてある程度までは仕とげることが出來ると云ふ自信を得ました。「一相關擊折」是は、私の職業に對するモツトーであります。

◇

物部佐久子

私の樣な者にまで意見などと、恐れいります。事務にも未だなれない私には別段の考へもございません。たゞ、會社に出て色々の惱みや苦しみを體驗する事の出來るのを喜んでゐます。色々の方面に思索を深め、戰鬪的社會にあつてもつと積極的に奮鬪致したいと思つて居ます。

◇

岡山しづ

私は某銀行につとめてゐます。女の職業は結婚することで、それを以つて生活の手段とすべきだと今尚多くの人は考へてゐます。嫁にもらひ手のない女が嫁入りまでのつなぎに職業に從ふものと云ふ考へを社會から、否職業婦人自身の頭からなくしてしまひたいものです。

生活手段としての結婚は、金の爲に身を賣る賣笑婦の生活と少しも變りはありません。勞働は神聖です。働く事は正し

い事です。私共職業婦人は心を合せて、婦人に閉された職業の門戸開放、男女賃銀の差別の廢止につとめ婦人の地位の向上をはからうではありませんか。

◇　竹内照代

希望を。まづしい自己の現在から何を希望致しませう。私は婦人記者と云ふ現在の仕事に滿腔の感謝を拂つてゐます。ただ職業婦人への希望として、一切の苦しみを微笑して甘受し明るく喜びをうたふ人であつて下さいと云ふ事を申上げたうございます。

◇　渡部靜江

せつなせつなを全人的に生きんとする願ひ、總ての抱負も希望も、それから生れて居ります。そして何物に對しても不滿を抱くいとまのない程、私の心は「自己完成」に急いで居ります。

◇　高木富代

時代の要求によつて生れた貴誌の前途を祝します。同時に私も職業婦人の一人として現社會に立つて居るのを悦びます。昔は人形的な女子を以つてほこりとしてゐましたが、現代では社會の一員として一定の仕事を持つてゐるといふ事は眞にほこるべきだと思ひます。

◇　梅津玉子

あまりに同性が品性の向上に無關心なのにはあきれてしまひます。ましてこうした工場生活者においては尙の事貞操觀念のほんとに薄い事を悲しく思ひます。異性の心理を明知する事も出來ずに一寸した口車にのせられ自由にされるといふ事は同性のため將また第二の國民を養成する上において殘念な事と思ひます。また自分の希望立場よりのを云へば、現在養成しつゝある生徒（縣施設の養成所の工女を生徒と呼ぶ）をなるべく異性の惡風に染ませず。ある程度までノンビリと教養し、性に對する考を時により場合により強めて行き、同性否職業婦人の世に處する術を確知させたいと思つて居ますたゞ自分自身が右のやうな希望をもつてゐたとても、工場主の理解のあまりに薄いこと、工女のかゝる事に對してあまりに重きをおいてゐない事を殘念に思ひます。

◇　石井白葉

社會の一員として婦人の重大なる任務を思ふ時、職業婦人の大發展を望んでやみません。時代の要求にともなひ、出現せる本誌の前途を祝福いたします。

◇　星野靜子

私は貴題の如き不平不滿または希望云々を思惟致さず候。たゞこれを以つて奉仕致すこそ人類の職業と存じ候。

◇　久布白落實

職業婦人の御創刊を祝します。職業婦人として先づ凡べての點に充實し、進んで更に門戸の開放を得たいと思ひます。團結し修養し進んで更に地盤を占むるやうに有り度いと思ひます。

◇　中村ツネ

私のやうなものにまで、ハガキを下さいまして、ありがとうございました。なんにも私にはかけませんが、私は人間として働くといふ喜びと、貧乏な父母に少しでも手助けになるといふ喜びとで、私は工場にはいる事に、むしろ自分から進んできたのですが、きて見ると勸誘員の話とはまるで違ひ悲しい事やあまりみじめなことばかりです。私のやうなものにはいちいちかく事は出來ませんが、私どもー番つらく思ふことは、夜業の時です。夜業の時はひるまねるのですが、ひるはよくねむれないので仕事場では疲れてヘト〱になつて苦しくてなりません。

◇　吉崎いと子

私も職業婦人の一人です。(職業はちよと申されませんけれど) 職業婦人——あゝ何といゝ氣な納まりかへつた名でせう金持の家のお孃さんが、綺い美しい洋裝で飛びまはつてゐるのを見る毎に、私は自分のみすぼらしいはげたメリンスの帶がなさけなくてたまりません。家が貧乏であるばかりに、女學校へもロク〱行かれず、好きな勉强も出來ず、毎月々々お米や家賃の心配ばかりさせられてゐる私は、しみ〱職業婦人といふ名がいやでたまらないのです。うちが金持でさへあるなら、父が失敗さへしてくれなかつたらと私はそればかり怨みに思つてゐます。だれが好んで人から輕蔑され嘲弄されながら×××なんかするものですか。

不平、不滿、それはもう數かぎりなくありますけれども何より私が不平で不滿でならないのは、朝から晩までこうして働きづめに働らいてゐながら、しよつちう生活のためにおびやかされてゐなければならない私たちの境遇です。ゾベラ〱と長い立派な着物をきかざつて自動車に乘り廻つてゐる貴婦人や令孃のある世の中に、どうして私たちがこう苦しまなければならないのかと思ふと、私にはこの文明とやらが社會とやらがのろはしくてなりません。さういへば愚痴だといつて笑つてしまふ人もあるでせうが、私はまたこんな不都合な世の中に生きながら現在の境遇に滿足してゐるとか感謝してゐるとかいつて自慢さうな顏してゐる同性のあるのを見ては滑稽なやら氣の毒なやら腹立たしいやら、とてもたまつたものではありません。私はこういふ人たちの無恥を悲しむと同時に、こんな風に女たちを無恥にした今の教育を心からにくみます。



職業婦人の立場から

紡績工場へ入つた頃

淺田きくゑ

何と云つても、初めて工場に入つた頃の印象が一番で深く私の頭の中に刻み込まれてゐる。七月の暑い盛りであつた、體格檢査に合格した私は、その次の日の夕方、契約書と入舍願ひに保證人の印をもらつて、浴衣やジュバンの一包みを持つで工場に行つた。工場といふのは、本所押上の××紡績會社だある。昨日入つた表門から入らうとしたら、門衛のおぢいさんに叱りつけられて、左手に廻つて裏口から、鐵のとびらを押して入つた。鐵のとびらは大變に重たかつた。ギイーッと開いて、ピシャリと閉まつた時、私は監獄へでも追込められたやうな變な氣持になつた。

と、左側に受付の男がゐて私を呼びとめた。

「お前はどこへ行くんだ」

と、怒るやうな調子で聞いたので、

「私は、今日から女工になつた者ですが……」

かう云つて、お辭儀をした。

それから寄宿舍に連れて行つてもらつて、監督の○○先生に會つた。先生は戸籍謄本と私の顏とを交る〲見ながら、家の事や私の身の上を聞いた。變にかすれた、田舍なまりの拔けない聲を出す先生であつた。顏立ちも、その聲に丁度似合はしい程田舍者のやうであつた。袴をはいて、二枚重ねの草履をぱたんぱたんと音させながら、寄宿舍の長いうす暗い廊下を、私の先きに立つて進んで行つた。

私の部屋は十五疊の、がらんとした大きな部屋であつた。一方がずつと押入になつてゐて、片一方は壁で、庭に向つた方には窓があつて鐵の格子がついてゐた。こゝの寄宿舍は、これと同じやうな部屋が拾二づつ並んで、それが六棟あるのであつた。

みんなお夕飯をすませて、風呂に入つたとあとらしく、綺麗な顏をして、仰向きやら、腹んばひやらに寢そべつてゐた。白粉で塗りつぶしたやうなのも三人ほどあつた。先生と見知らぬ私とが入つて來たのでみんなびつくりして飛び起きた。先生が行つてしまふとまた、みんなが寢そべつてがや〳〵し出した。小さい紙に包んだ煎豆を、三人ほど集つて食べてる

る人もあつた。
　この部屋は、新参者ばかりを入れておく部屋である。一と月ほど立つと、眞當の部屋に入れてくれるのである。この部屋には、特に人のよささうな部屋頭をおいて、成たけきまゝをも大目にみてやつて、早く慣れさせやうとしてゐるのであるらしい。四十程な小柄なおばさんがゐて、いろ〳〵と親切に世話をしてくれた。
　あとで聞くとこのおばさんは、若い時女郎をしてゐたさうで、それがこのおばさんの唯一ッの自慢話しであつた。成ほどこの人は、若い時は倚麗であつたらうと思はれるやうな人であつた。しかも、四十程にもなつたおばさんのくせに、非常にだらしがなくて、煮しめたやうなよれ〳〵の汚ない着物を着てゐて、めつたに洗たくをしないらしかつた。殊に、くず綿をえる仕事をしてゐるおばさんは、いつも綿帽子を被つたやうに古綿のくずを頭につけてゐた。そして、小さい子供をおだてゝは二錢か三錢お菓子を買つて來させて、その内の大部分を自分が食べてしまつた。然しみんなは、おばさん〳〵となついた。おばさんも毎日機嫌よく、嫌な顔一つせずに、自分が先きに立つて掃除をしたり、ふとんを敷いたり疊んだりしてくれるのであつた。
　その晩　私は中々寝つかれなかつた。一ッの蚊張の中に九人で寝るのであつたから、むつとしてなま温くて耐らなかつた。蚊帳の外に顔を出しておくと、とても蚊が多かつた。外の人は大抵腰巻一つになつて寝てゐた。みんな大きいいびきを立てゝぐつすり寝込んでゐた。私が大分經つてからうと〳〵としかけたとき、人の話聲で目がさめた。二人の女工がロウソクに灯をともして、蚊帳につかまつてゐる蚊を焼殺してゐるのであつた。チラ〳〵と動く灯のかげに、眠さうな眼をした二人の女が、赤い腰巻一つの姿で蚊を探しながら、まはつてゐた。そして大きな聲で話をしてゐるのであつた。そこへ、廊下に〇〇先生の足音らしく、ぱたん〳〵とやつて來た。二人は灯を消して寝轉んでしまつた。先生は電氣を點けて蚊帳の中をのぞき込んだ。毎晩一度づつ頭數をかぞへてゆくのである。
　この新参者の特別室にゐる時だけ、夜食にお菜が二つ附いた。と云つてももちろん大した馳走があるわけでなく、とろゝコンブのお汁か、朝と同じいミソ汁かに添えて、雪駄のやうなこち〳〵した鹽サケの小さい切身がついたり、コンブのつくだにがついたりする位であつた。ふところから、梅干やするめやミソなんかを出して食べてゐる人もあつたし、氣が利いてゐるのは、二人か三人が仲間になつて菜づけを作つておいたり、魚を煮たりして食べてゐたりした。新参者の悲しさには、そんな金子はなく、いつもうまさうなにほひだけか

かされてゐた。そんなのは、お駄賃を五錢程奮發して、通勤の人の袂にしのばせて來てもらふのである。

食堂の中は、變に鼻のつまるやうな生温い臭ひがして、それが御飯にもお菜にも染み込んでゐた。殊に、大きな肥料杓を聯想させる木杓で、どろどろとミソ汁なんかをくみ出してゐるのは、たまらなかつた。炊事の男が、きれいさうな女工に戯れながら、特別に盛り澤山にして、さきから待つてゐる人をあと廻しにしても、その人に先きにお菜を渡してゐるのも、あんまりいゝ氣持がしなかつた。何しろおそくなるとお菜がなかつたり、御飯がなかつたりするし、有つても如何にも殘物らしい汚ないのが殘つてゐるだけであるから、私も、用達しを我慢してあと廻しにしてでも食堂へ急ぐやうになつてゐた。

便所の汚ないことは、話にならない程であつた。初めの內は、あんまり汚ないので、二度のところを一度に我慢する位にして、便所にゆくのを控目にしてゐたが、慣れるといふ事は恐ろしいものである。一週間位經つた頃には、もうそれにさへ平氣でゐた。

工場の中は絕えずごうごうと大きな音がしてゐて耳がつんぼになりさうであつた。私には話聲なんかまるで聞えないのに、みんなケンカでもするやうに大きな聲で怒鳴りながら、話をしては笑つてゐた。さうでない所は、もうもうと湯氣立つてゐて、非常に熱かつた。糸がかわいたり、切れたりするのをさまたぐためであつた。そこでは上氣した赤い顏に汗さへ出して、懶うさうに手を動かして働いてゐた。私は初めリングの場で働いたのであつたが、慣れない手つきで、あの細いぬれた糸が切れないやうにするために、余程頭を勞した。仕事はつらくはないが、目まぐるしく回轉してゐる機械の前で單調な仕事を繰返して、一日中棒立ちになつてゐるのがつらかつた。

女の監督が一人、いつも後ろを見廻つて歩いてゐた。女工の仕事場で働いてゐる男工は、みんなろくな仕事はしてゐないらしいのに、中々はゞが利いて押しが利くらしく、女工はみんな爭うてじやれついて、笑ひかけ話しかけするのであつた。男工の顏の中に、この女らは皆オレの自由になるんだと云ふ風な露骨な得意さが見えて、私は反坑的な氣持になつたが、然しさすがに、若い男や女が、面白さうにキャッキャッ戯れながら元氣に働いてゐるのは、見てゐても氣持いゝものだと思つた。

夜業は大抵の者はいやがつてゐた。夜業はたれでも、失敗ばかり繰返して夢うつゝにぼんやりと働くだけであつた。

終つて工場の外へ、明るい所へ出て來るとふらふらと目がまひさうであつた。みんな人心地もなく、押込むやうにしてた

つた一杯のお茶漬を無理にかつ込んでふとんにもぐり込むのであつた。

ふとんは夜業中の一週間、敷つ放しであるし、次の晝業になるまで雨戸を閉め立てたまゝである昨夜つけた白粉が銀ねずみ色をして首のあたりにこびりついてゐるのも、一層みぢめに見えた。

夜業を心待ちにしてゐる人は、それは、男工とあひびきするに便利なのを喜ぶ人だけだ。

寄宿舎の一室に、夫婦者のせんたくやさんがゐた。ジュバンでも、着物でも、仕事着でも、腰巻でも、何も彼もこの人たちに洗つてもらふ人が非常に多かつた。二人は、毎日せんたくばかりしてゐた。ある日、私が浴衣を洗つて干しておいたら、まだ三十分と經たぬ内にどこかに盗み去られてしまつた。まだぬれてゐる筈だからと思つて、隨分探したが到頭なかつた。同輩のおみちさんは、

「あんたも、よささうなのを一つ盗つて來いよ」

と敎へてくれた。こゝでは軍隊の中と同じ事で、盗まれた者が間抜けなのであつた。欲しかつたらそれに代るものを盗つて來いと云はんばかりのやり方である。

職業婦人と言ふ女

池田こぎく

「職業婦人」が發刊されるときいた時、何か知ら力強い感がしました。と同時に「何か書いて見やう」と言つた緊張味を感じました。と言ふのも、職業婦人と言ふ名辭が確に自分ものだ、と言つた意義が餘りに明瞭だからなのでせうか。さう敎職に就いてからもう十二年になります。可なりしにせた商賣だ。と言ふこともその看板を無條件で受取らうとする心持であります。公務の場合を除くの外は、出來るだけ職袴を外づして、世間並の女！　つまり無職業の婦人顔をしてゐたかつた、と言つた若い時代ももう過ぎて終つて、今では退引のならぬ「先生」になり澄して終つた、と言ふ自覺の強さ、と言ふよりは、むしろ近頃の私が持つ職業禮讃の喜びも、たしかにその看板を快受させたわけでありませう。若過ぎもしない。老過ぎてもゐない。今だ。今が働き盛りだ、と言ふ明るさも、その理由の一つでせう。兎に角、職業婦人だと言はれることが、ただ女だと言はれること以上、どれだけか私にはふさはしい、そして落つきのある言葉かも知れないことがこんなに私を緊張させたのでせう。

こんなことを申しますと、何だか職業婦人は、世間並の女とは少々毛色の異つた辨者ででもあるかの樣で、妙に穏かさ

の欠けた言振りの樣にも聞えませう。實はそこの問題なのです。

「人類」と言ふ一つの桝で量らうとするには、地球上の各人は、餘りに明瞭な個性者であり過ぎる。と同じく「女性」の內容にもいくらもの型があります、女性、男性、それが適當な分量で配分されて、Aと言ふ純粹女性者、Bと言ふ男性的女性者、Cと言ふ中性者が生れ出ることは事實であります。（この類の主張の中でも、山川菊榮氏の譯、女性中心說は、近頃面白く讀んだ一册でありますが）あらゆる女を「女性」と言ふ絕對名辭の中に包含せしめて終はうとすることの、不可能であり亂暴であることは、申すに及びません。しかし如何なる女性にも、人間である以上、拔差のならぬ問題は「生きる」ことであります。今日よりも明日は、より多く幸福であつてほしい。明後日の晴れた氣天が待遠しい。と言ふものは胡麗化すことの出來ぬ切迫つまつた問題であります。そこで、女、と言ふ十把一束の荒繩をかみ切つて、より幸福に生きるためにはひ出して來たのが、世の職業婦人であります。男性でさへあればよい。異性者でありさへすれば、それで事が足りる。と言つた無選擇、當てがわれ主義の結婚でなく、純粹女性者としての、中性者としての、男性的女性者としての自己に最もふさはしい配當者を探し求めて、自然的な融合生活に意義あらしめたいものだ、と唾手一番勞働者仲間に首をつつ込んだもの、そは世の職業婦人であります。と、しますならば、職業婦人には確に荒繩をかみ切るだけの活動性と勇氣と果斷とを持合せてゐる筈なのです。責任ある地位で、兎に角組織的な手腕を振まいて行けるだけの素を持合せてゐるに異ひないのです。當てがはれ結婚をして、扶持米をはんで、狹い部屋の中で、とてもグズ〱しく居れない彼女は勇者であるに違ひないのです。男性、女性、それが七分三分であるか、六分四分であるか、五分五分であるか、もちろん數字の上では例へ得ぬものであるにしても、彼女等はそれだけに特異な混合的素質の持主であることには間違ひがありますまい。

　そこで話を元に戻しますと、「それじやお前は混合兒なんだね、職業婦人であると言はれることを、それだけふさはしく親しく思へるだけ、それだけ複雜な混合兒なんだね。」と言つたところへ話が落ちさうになります。確にさうなんでせう。近頃ではもうすつかり自分を「先生」にして終つてゐます。人からも「先生」として迎へられることを豫期してゐます。途中で人に出逢つたりした場合にでも「あゝ、先生ですか」と呼びかけられることが、何かゆつくりとした落つきを感じるのですから。

　食はねど高揚子で暮すことの出來た大平の御代ならば兎に角、生活問題、社會問題がひし〱と眼前に迫つて來た今日で

はマルマゲや高島田で運命づけられた所謂純粋女性は、日に日に類を失せて、教育に、經濟に、政治に、兎に角社會の活動舞台に立たうとする複雜な混合女性の姿が賑かになつて來ました。と、こんな論法で進んで行きますと、それでは文化の程度が高まるにつれて、世に男女の差別はなくなつて終ふのか、但しは男女轉倒の時代が來るのか、と言つた結果になりさうでありますが、それは全くお門違ひな問題でありますと同時に、ここではこれ以上この論理を押進めて行く必要もありません。たゞ一般に職業婦人が特異な責任の持主であることを述べたい爲に、ここまで叙述して來ただけのことであります。

そこで、喜んで身を社會的職業に置かうとする者、職業婦人であることに何等かの幸福を感じ得る者は、それだけ特異な自已の素質即ち個性に生きつゝあるものであります。傳統的な因習から解脱して、創造の天地に新生命を見出さうとする女性であります。職業婦人、それは矢張り私には、好きな親しい言葉であります。

ところが今、さう言ふグループの者が、共に談じ、共に究めやうが爲に、「職業婦人」を發刊しやうとする計畫は、我々の双手を擧げて喜ばなければならぬことであります、しかもそれが、女の手によつてなされるのだ、と言ふ點に一層の强味を感じるのであります。「職業婦人」を一本の綱にして、數球玉のさされて行く樣に、世の職業婦人が同じ氣分に强い握手を交して進むことの出來る日も近いた樣に思はれます。華奕な空虚な場面からでなく、汗と油ににじんだ地味な地帶から、やがて婦人改造への猛者を送り出すのであらう。と喜びに堪えないのであります。この希望と、この喜悦との中に、拙稿を綴つて、本誌の發刊を御祝いたします。

工場婦人の地位

貝原たい

産業革命は私共婦人に多くの影響を與へた。が、殊に最も甚しかつたのは、紡績業であつた。それは西洋でもまた東洋でも同じことで、今まで家庭内で糸を紡いだり、布を織つたりして働いてゐた者が、一度び大仕掛の機械が發明されてからは、手でする何百倍、何千倍といふ仕事が出來る。そこで今までの樣に家庭内で澤山の時間と勞力を使つて、作ることは引き合はなくなつた。從つて家内工業に從事してゐた者は今度は家を留守にして工場に出掛けねばならなくなつた。

けれども現在のやうに、一家々々が別々の生活をしては、婦人が外に出て働くと云ふことは、色々の方面に無理がある。先づ第一に共同食堂もなく、安全な託兒所も無い、それに母

親が家を明けて工場へ行くことは、小さい子供に取つて、非常に可愛想である。赤坊は工場内の不完全な託兒所に預けられ、學校へ通ふ子供は、普通の子供の眠つてゐる頃から、鞄と辨當を持つて、家を追ひ出される。何故かと云ふに、工場はたいてい六時より始るから、それに勤めるには、子供も一緒にたゝき起して、戸じまりをして行くのが常であるからである。學校が終つても同じく、兩親が夕方、工場から歸つて來るのを待つて、家に歸るより外はない。その間子供等は、野原や路端に遊んで、遊び疲れると、近所の家に晝寢をするか、さもなければ草の上に寢るのである。こんな風に小さい時から、流浪の習慣をつけると、規則正しい活は生出來なくなり、從つて、將來にも悪い影響を及ぼすことになる。

次に、母親は樂な生活か出來るかと云ふに、まるで正反對である。塵の多い、大きな音のする工場で、毎日十一、二時間の長い勞働そして、家庭に歸へれば、待ち兼ねてゐる子供の爲めに、また食事の調理に、洗濯物に、とても仕切れない程の仕事がたまつてゐる。こんな家庭の雜務をしてゐる内に、夜はすぐ更けて新聞の一ページも讀む暇はなく、工場に家庭に、二重の負擔を負つて、身體はだん〳〵と衰弱するばかりである。殊に、紡績業は眞夜業をするので、一層身體に害を及ぼす。紡績女工の顏色の悪いのは、此の爲めである。それから賃銀は、粗末な衣食をさへ求むるに足らぬ程しか得られない。かくして、一生を雜務と疲勞に終つて行く勞働婦人は社會がいかに文明にならうと、便利な道具が發明されようとその恩澤に接することは出來ないのである。如何に三越や白木屋に、立派な物が飾られようと、世界一の音樂家が來ようと、まるで無關係である。

かやうな生活を續けてゐる婦人が、日本の纖維工場――製糸業、綿糸紡績業、絹糸紡績業、絹織物業、毛織物業、モスリン業、製麻業――だけでも六十五萬人はある。その外、專賣局、護謨工業、電氣工業、マッチ製造、菓子製造、鑛山等に從事してゐる者を加ふれば、約七十五萬人はあらう。そして我國の工場勞働者は、男女を合して約百五十萬人であるから、その半數は婦人が占めてゐる譯である。即ち我國の產業の半分は、婦人の手によつて、支へられてゐるのである。

日本の產業において、婦人が占めてゐるかくの如き重要な役割を考へ、そしてこの婦人が前に述べたやうな奴隷的境遇にあることを思ふ時、私達は工場婦人の團結といふことが如何に當面の急務であるかを感せずには居られない。

働くことを誇りませう

加賀美春子

近頃の婦人が職業と言ふものに對して目ざめて來た事は、大變よろこぶべき事でありますが、まだまだ職業を持つことを、否持つて居ることをいとふ人達の多い事を見るもので御座います。

職業をもつと言ふことは決して恥づべきことではなく、實に大切なことであります。虚榮心のために、自分は働かなくともすごして行けると言ふ事を示したさに、職業を持たぬことを自慢にするような、實に情ない婦人または男子を見受けるので御座います。

働く事は人間の最も大切な事であつてかへつて働き得る身體を與へられておりながらのらのらして居るものこそ恥づべきではないでせうか。生花を持つた令孃ははかまを付けた職業婦人に對してブベツの目を向けます。未だ理解のない男子は、妻に職業を持たせるような男は働きのない馬鹿ものだと申します。

そう言ふ風ですから職業を持つて居る婦人達は出來るだけかくそうと致します。店員は令孃風に交換手や事務員は學生風に、けれど今の婦人は昔の如く男子のフゾク物ではありません。されば經濟上の問題においても男子の支給を待つまでもなくある程度までは自ら得る必要があると思ひます。信越地方の婦人達は、財産の有無にかゝはらず働き得る年頃になれば、種々の職業に從事し働かずに居るものはかへつて恥づると言ふ話ですが、大變よい風習であると思ひました。けれどめいめい立場が異なり、お互に使命も異なつて居りませうから、全部の婦人が職業をもつと言ふことは、もちろん不可能なことでありますが、もう少し理解していたゞき度いので御座います。一口に職業婦人と申しましても甚だ範圍がひろく、教育事業に從事するものから小さな工場に働く女工に至るまで網羅されて居るのでありますから、その能力において決して一樣ではありませんが働くと言ふことにおいては、何等の差ないと思ふのであります。

お互に尊い勞働を理解し、働くと言ふことを大いに自慢し樣ではありませんか、そしてそれと同時にたゞ機械的に働くと言ふのでなく、その間に自らの立場の向上を計り度いと思ひます。

女醫の感想

山田信子

醫者をして居ると貧困と病苦とが、如何に密接な關係を持

つて居るかを痛感しないでは居られません。

眼醫者を訪れる患者の大半は、「トラホーム」患者ですが、たれでも知つて居る樣に「トラホーム」は、不潔不衛生の產物です。そして不潔や不衛生は貧困と離れることの出來ないものではありませんか。

子供でも大人でもおかまひなしに命を奪つて行く諸種の結核症の主な原因は、營養不良や、日の入らない空氣の惡い住宅などであることは、たれでも知つて居る事です。

先頃もある醫學雜誌に、慢性球外視神經炎や、點狀表層角膜炎などゝ云ふ眼病が、紡績工女に頻發することを擧げ、これは他に原因が見つからないから、工女の生活に特有な營養障碍を原因と認めるべきであると報告してあるのを見ましたこれなども、不衛生な工場生活が、どんなに少女の健康を犧牲にして居るかを語る一例であると思ひます。貧困は數知れぬ人類を病苦に陷れて居ます。

然るに、金まうけ本位の今日の社會では、病院も藥も、貧乏人には開放されて居ません。貧乏人には、高い入院料や高い藥代がどうして拂ひ得ませう。休養することも、病人に必要な營養をとることも出來ない人が無數にあるのです。貧困は人を病氣にするばかりでなく、治療の道をも絕つて居ります

私は一病院に雇はれて働いて居るのですが、終日の、時間に制限のない勞働に對して、男子の半分以下の月給を支拂はれ、私同樣に貧乏な人のためにではなく、お金持ちの我儘患者と院長のお金まうけのために働かされて居ます。

私は一日も早く、貧乏人と金持ちのない社會、病人はたれでも、當然治療に全力を盡せる社會、男も女も同樣に社會的に働ける社會の實現される事を、女醫として熱望しないでは居られません。

街をかへる

竹内照代

久枝樣。

今夜はまあ、何と云ふ甘いなまめかしい氣分のする夜でございませう。さくらも散つて、八重もすがれてもう青葉になりましたね。それにしてもお忙しい御日常に夏物の裁縫は御出來になりましたか。

私はいま、疲れ切つて口もきけないやうになつて居ります。そのくせかうした場合にのみ感じる頭の透明さが、貴女に何か書いて見たい氣持になりました。じつと目をつぶつて暗い光の下に身を横たへると、關節が一つ〳〵、ばら〳〵に放れるやうな苦しさを感じます。ジーンと、まるで遠い所で鳴いてゐるむしの聲をきくやうな落付きが頭を支配して、息をず

ゐのも嫌なほどです。
　久枝さま。
　今日はA女史の送別會があつて、私は半日あつちこつち走りまわる忙しい思ひをしました。
　名流、上流、その名こそ立派ではありますが、そうした婦人達はまあ何と云ふ華かな生活ぶりをして居られることでせう私は全く自分一人離れ島に行つたやうな心さびしさを感じました。私はその群の談笑に耳をかたむけやうともせず、たゞ私の世界のたゞ一つのことだけを夢中になつて考へつゞけてゐました。お笑ひになつてはいけません。心はさびしかつたのです。會がはてたのは九時半すぎでありました。私は、疲れのために目がまわりそうなのを漸くこらへて、郊外の街をかへりました。長い間の修養で、肉體の苦痛のために精神を決して暗くしまいとして來たさすがの私も、大分變つてゐたのでせう。
「あら、どうしたの？」
　いきなり言葉をかけられて私はふり向きました。
「どうしたの、髮をぼうぼうにして！」
　その人は美しく化粧したほゝにかすかな笑ひをみせながらこう申しました。
　久枝さま。
　貴女はあのお節ちやんを知つてらつしやいますかね、ほらあのカフエーのウエトレスに成つた人を。
「疲れちやつたのよ、會があつたものだから」
　私はそう云つて明るいともしびの光をさけて、そこに立止まりました。
「何か悲しいことでもあるの？　そんな顏して」
「否え」
「どうしたの、大きななりして……」
　お節ちやんは聲を擧げて笑ひました。
「さようなら、あたし歸るわ！」
かうして私は家にかへつてまゐりました。
　久枝さま。
　お節ちやんは、去年の春病院に行つた頃にお近づきになつた人でしたね。あの頃、貴女はお節やんのことを、「ソニアの妹」つて云つたぢやありませんが、目の涼しい、髮の毛の黒い、明るい顏立ちでしたけれど、樣々の身の上話をしても、決して自分の病氣を話さないんでしたつけ。
　貴女が看護婦の高木さんにあの人の病氣を尋ねなさつたら
「あの人は大變な病氣よ」
と高木さんは意味あり氣に笑つて去りました。大變な病氣！
この言葉が永い間心にあつたほど私達は子供でございました
　久枝さま。
　職業をもつてる女の心の不足や不滿やさびしさは、その人

の主觀によつてまた變化することが出來るでせう。けれども覺悟の上に亡びゆくものを救つて下さる人は無いのでせうか。すべての職業は生きんがためにあります。さればこそ、その人の人格と個性の發露であつてそしてその人の理想へ向ふ道程でなければなりません。否え、よしその職業に對して、本質的不滿を持つてゐるとしても、それによつて甘んじて生活する間は、その仕事を愛すべきだと思ひます。生命にもかへがたき女の情操を亡ぼすことをもつて、職業と呼ぶことを許す社會は、まあ何と云ふ不合理でせう。生きんがために死ぬ位ならば死なんがために女として生き終つた方を、私はどんなに立派だと憧れるでせう。

久枝さま。

けれども私はもう疲れました。事實もし、そうした悲しい女性の存在が不合理なものであつたら、日常社會の表面に立つて働く夫人として我も人も許してゐる今日の會の婦人達がみな正しく御處理なさいますでせう。貧しい、しかも大人でない私は疲れました。私はただ、同性としてお節ちやんを祈つてあげればいゝのです、夜も更けてゆきました。何だか心が堪えられなくさびしうございます。私はいま靜かに、私の魂のコンダクターを仰ぎ見て安らかにお床に入りませう。

久枝さま、また梅雨が來ますどうか御丈夫で御勉強なさいまし。

人としての自由へ

三宅やす子

職業婦人に密接な問題をお取扱ひになる雜誌の生れ出たことを御よろこびいたします。

婦人に職業が必要かどうかとか、男子の樣にやつて行けるかと云ふ樣な事は、以前には大分やかましく云はれたものでしたが、今はもう、左樣した論議の時代を通り越して居ります。

婦人に職業の必要な事は、部分的に必要なのでなくて、あらゆる婦人問題の解決に、婦人の經濟的獨立といふ事が、どれほど大きな力を及ぼすかと云ふ事を考へれば、自ら明らかなことなのであります。

永い間男子に寄食する生活が續けられて來ました故、婦人の道德の凡ては、男性の勝手に作り出した方便的の契約でありました。

今、婦人が完全に經濟的に獨立する事が出來た時、云ひ換へれば、男性との物質的の直接交渉がなくなつた時、そこに生れ出た。戀愛關係や結婚生活は、眞に惠まれた自由な生命のあるものであります。

此自由といふことは、凡ての醜い事實を打ちやぶつてくれ

(十七頁へつゞく)

今と昔

(1)

日本の太陽　西洋の星の母は共に私等の姉さんなのださうで、今に世人崇拜の的になつてるが

(2)

何日の頃よりか私等は家庭の牢獄に物憂き月を仰がねばならなくされてゐた。



(3)

然し私等は今更昔を今に望みはしない。たゞ完全な人、完全な母となれば足りるのだが…

雑詠

金子波瑠

日ねもすのつかれ出ては靜か夜の
その寂けさも愛でずなりけり

◇

師を訪ひて歸る夜の道サンサンと
郵便馬車の走り行きけり

◇

その昔通ひなれたる道のべの
赤きポストもなつかしきかな

◇

悲しみを一人もだして忍び行く
その心のみ尊かりける

◇

ペン握る手にほゝに髮に夜一夜
うるさく蠅の一つまつはる

◇

夜汽車にて硝子の雨の水玉の
數まし行くをみつめてありき

◇

うす暗き田舎夜汽車の見も知らぬ
人にまじりて物思ひ行く

◇

强ひられて金比羅詣の小屋芝居
見てかへるさの細き三ヶ月

◇

仇討の若武士のほゝこけて
老けて見ゆるがいたくさびしき

◇

風渡る隔離病舍の夜は更けて
氷割る音のたえたえ響く

◇

歌おもふ心もなくてうつとりと
十勝の山を眺め暮しぬ

◇

うす暗き納骨堂のきざはしに
御名稱へつゝ暫しぬかづく

◇

天地がたくみのまゝに生ひたちし
十勝はひろし雄々し尊し

◇

强かれと强ふる言葉も思ひやり
なき心かと胸に問ひ見つ

◇

待ちくれし姉來まさねばその心
いらだたしくもこだはり殘る

◇

土の香の新しき畑をなつかしみ
鷄など追ひつ歩きまはりぬ

◇

君に云ふ、いみじき言葉なきまゝに
今日の一日の暮れんとするか

◇

禪寺の公孫樹の下でまりなぐる
少年のほゝに陽のかゞやける

◇

雨やみし汀に立てば見はるかし
海に火燃ゆる雷電の海に

◇

石狩の平野の端に煙立つ
君在すてふ會社のけむり

私たちの立場

奥むめお

職業婦人社は、月刊の雜誌『職業婦人』を發行する事をその第一の仕事としてゐます。そして今『職業婦人』の創刊號が生れたわけであります。

私たちは、私たちの第一の仕事として生れたこの雜誌が、これを讀んで下さる方々と私たちとの間に、どれ程深いつながりをもたらしてくれるであらうかといふ事に就いて、非常に多くの期待をつなぎながら、微力な自分たちの上に幾分の不安を禁めえないでをります。

私たちはいつも、

『さしあたり、『職業婦人』だけが私たちの仕事なんですから、この雜誌が貧弱なものだつたら、私達の仕事は意義をなさないわけですからね』

と云ひあつてゐます。

然しそれは、この雜誌が私たちだけのものであるといふ事を意味するのでは決してありません。『職業婦人』は、全ての人の前に提供された一つの機關であります。少く共、『職業婦人問題』といふ大きな社會問題解決のために、協力しやうとしてゐる人々全體のために生み出された機關なのであります。私たちは、この雜誌が、志を同じうする全ての人々に依つて育まれ、そして利用せられるやうにと希つてやまないものであります。

こゝで、發刊するに至つた私たちの氣持を聞いて頂きたいと思ひます。

職業に就く婦人の數が年々激增しつゝあるといふ事はたれの目にも直ぐにうつる社會の實狀であります。東京市內だけの職業婦人の總數さへ、十九萬三千八百四十九人（大正九年の國勢調査に依る）、全國においての總數は大約四百萬、と云はれてをります。こゝに緊切な、社會問題としての婦人問題が横はつてゐるのは云ふまでもありません。

然し、私たちが今度、雜誌『職業婦人』を中心にして協力するに至つた直接の動機は、さういふ數字に現はれた現象や抽象論に刺激せられたためばかりでは、決してないのであります。

私たちはみんな、自分は職業婦人であるといふ意識の上に

立つて働いてゐます。それは、きまつた俸給をもらつて働いてゐるか、さうでないかの別はあつても、とにかく、自分は働いて生きてゐる、といふはつきりした氣持の上に立つて生きてゐるといふ點では、みんな同じであります。

私達は、職業婦人といふ意味をさういふ風に解したいと思つてゐます。詰り、狹義の職業婦人と所謂家庭婦人との全般を含むのであります。

自分は働いてゐる！　しかもこんなに働いてゐるのにも拘はらず、自分は非常に貧しい、働きに追はれてゐるばかりで遊びに出る事も出來なければ、讀みたい書物を買ふ餘裕もない、とかういふ不滿を抱くとき、私たちは、自分達とは全で反對な境遇に呑氣に暮らしてゐる人たちも、この世の中には多いといふ事を思ふのであります。また、自分は非常に忙しい、この忙しい身體の隙に、勉强もしたいし音樂も習ひたいと、かういふ慾望をもつ時、私たちは、自分達とは全で反對な境遇で、あり餘る學資金をもらつて遊んでゐる者も澤山有るのだと思はずにゐられません。あるひは、自分は働かなければならない。どうも健康が勝れないけれども――親、兄妹、夫、子供のいづれかが病氣をしてゐるけれども――若しくは產前、あるひは產後の大事な時であるけれども――けれども勤め先きを休んだら、さしあたり食ふにも困るやうになるであらう。かういふ事情の下にゐる人は、恐らくは、フガイない自分の境遇に泣きながら、いやでも、仕事の方へ引ずられてゆくでありませう。

その他、澤山の人のいろ／＼な希望や、あこがれや、必要や、誇りなどが、この世の中の大きな掟てのために、無慘にも、破られたり、ゆがめられたり、ほろぼされたり、無視せられたりしながら、しかもそれをどうする事も出來ないで、みんなあきらめて、たゞ引ずられて働いてゐる人がどんなに多い事であらうと思ふのであります。そして、私たちもみんなさういふ不滿や歎きの中のどれか一つかを、多かれ少かれ胸にもちながら働いてゐる者ばかりであります。

私たちは、元氣に、愉快に、笑ひながら働きたいと思ひます。そして、出來るだけ自分たちの希望や、あこがれや、誇りや、必要なことを充たして育てゝゆきたいと思ひます。

そして、それにはみんなが――同じ希望や、あこがれを持つた者、同じ誇りに立つもの、同じ必要に迫られてゐる者同志がみんな相協力して、散らばつてゐる一つ一つの力を集めて一つの大きな力にして、私たちの行く手を遮ぎる一切のものを排しながら、お互ひに援けあひ、勵ましあひ、學び合ひ、喜び合つてゆきたいと思ふのであります。

私たちの「職業婦人」を發刊するに至つた助機は、實にそこにあります。私たちは、この雜誌を中心にして、みんな觀

（十七ページにつゞく）

女の顔、草花、ハート

―流行婦人雜誌六種飛び讀の記―

鎌田槌子

今わたしの机の上に、現代流行の婦人雜誌が六種、いづれも菊判二三百ページの、同じやうな恰好をしたのが、草花の鉢でも並べたやうに、並べてある。わたしはこれから、それを一ツづゝ飛び讀みして、何か少しづゝ惡口でも書いて見やうといふ好奇心を持つてゐる。

先づ順序を定める。『主婦之友』『婦女界』『婦人世界』『女性日本人』『婦人公論』『女性改造』いづれも五月號だが、最後の分だけ六月號だ。

第一『主婦之友』。若い當世風の女の半身像の油畫が表紙になつてゐる、七三髪の餘りキチンとしてゐない所、着付の餘り派手でない所、殊に顔付の健康らしく見える所は、氣持がいゝ。たゞ『主婦之友』といふ表題の字體（お家流？）が餘り古風で、調和を破つてゐる。然し中を段々くりひろけて見ると、七三髪とお家流とが到る處に不調和な調和を現出してゐるやうな感じが起る。政治家兼クリスチヤンたる田川大吉郎さんの『時事感想』や『文學博士』の谷本富さんの『新夫道と新婦道』などが、七三髪の奥さんに似合つた程度の「婦人の權利」を、古い思想と習慣とに大して逆らはぬ範圍において主張してゐるのと並んで『たれにも必要な茶の湯の作法』が澤山の寫眞入りで載つてゐる。この『誰にも』とは一體どういふ社會を目安にした言葉だらう。現にこのわたしにも茶の湯の作法が必要なのだらうか。

『社會の迫害に泣く部落の若き婦人の叫び』これをチョット讀んで見た。一つは、學校の先生から侮辱されて死なうとまで決心したが、『ふと一道の光明を見出して『正直に味方をするものは人間ではない、天だ、神だ、佛だ』と呼び、『今までとは打つて變つた心持で、御佛に仕へて』ゐると云ふのだ。今一つは、K樣といふ靑年と愛しあつたが、血統の爲に先方の親が承知せず、K樣は『血を吐く思ひで父の意見に從ひ』、『本人は父から『あきらめが肝甚だ』と說かれ、結局、今では『僅かな遺産をまもり、一人家にゐてさびしい日を送つてゐる』と云ふのだ。わたし

はこんな『部落の若き婦人』に對してはあわれむと云ふよりは寧ろ憎む心の方が強くなる。何んといふ意久地のないアキラメだらう。そしてわたしはまた、こういふ『悲しき告白』ばかり（作り話だか何んだか知らないが）を載せて、讀者の安價な涙を誘ふ雜誌記者を憎まずにゐられない。

『罪に泣く男女の懺悔物語』が懸賞應募として幾つも出てゐる。『賞』をもらつて雜誌に發表する爲に態と書いた『懺悔文』が、そのセンチメンタルな技巧樣において、いづれも可なりな玄人味を帶びてゐる。そして『本誌身上相談部主任番町教會名譽牧師』たる綱島佳吉さんがそんな事には氣もつかないらしい態度で『悔改め』の說教をしてゐなさる。

第二『婦女界』。これは前のに比べると、ズット派手な若い女が、櫛で髮をすいてゐる。やゝ艷味の多い畫を、表紙にしてゐる。これは若い男の目を引く爲の表紙か知らんとさへ思つたが、そういふ効力のある態度身振を女自身に知らせる爲だとすれば、譯が分つて來る。澤山な口繪、サシ畫、寫眞、うるさいほどある樣々の廣告、及び諸名家の小說脚本などは、大てい前のと同じ事だが、全體において此の方が少し理屈味を餘計に帶びてゐるかと思はれる。記事評論などの表題の付け方にも少し堅くるしい文字が使つてある。前のと違つて極く品のわるい廣告は載つてゐない。

『婦女界批判會』第一回の記事が最初にある。『現代生活に對する批判』としてその速記が載せてある。出席者は八人で、その中には鳩山春子、菊池寬などいふ名前がある。『現代婦人として職業的にも働かなければならぬが、また精神的にも大いに働かなければならぬ』といふのが結論だそうです。それで何か分つた積りだからおかしい。文學博士野上俊夫さんの『生活改善の精神的基礎』と云ふのは、『徒らに舊習を墨守せざると同時に、また徒らに新教に迎合せんとする輕薄な態度に陷らざること』だとさ。お極りですわね。

それでも此の雜誌では、大ぶん委しい『水平運動』の記事があつて、『光あれ！』などゝやつてゐる。叱られはしませんか。また『主婦之友』の紙上では、貧乏人などゝいふ者が此の社會に居るのかどうか全く忘れられてゐるやうな氣がしたが、此の雜誌には『どん底生活者の群』といふ記事が一つある。然しその結論はかうです。『上には限りなく下にも限りがありません。……一般の人達は、少くとも不足を言つてはならないと痛感させられます。』あゝ幸福なる『婦女界』の讀者達よ。

、第三『婦人世界』これも表紙は七三の

女の畫。巻頭には德富猪一郎さんの『我が母の美しき犠牲の愛』がある。『母の性質で私の感じてゐた一つは、如何なる場合にも物事に後悔しないこと、愚痴をいはぬことでした。……どんな時でも、陽氣で、樂天的でした。人が集まればその中心になる人でした』は面白く感じた。

何しろ此の號には『美と愛に生きる女性』と題してある程だから、そこにもこゝにも『美』だの『愛』だのといふ文字がまきちらしてある。讀者は食傷の氣味だ。次に大野博士の『凌辱事件』が大活字で取扱はれてゐる。それに對し浮田和民さんは、『手ぬるい社會的制裁』を齒がゆがり、『男子側の貞操道德を向上させるやうに、……社會の輿論を沸騰させる必要がある』と云つてゐるが、その『男子側の貞操道德』が何故に守られないかといふ根本の社會的經濟的原因には、一言も考へ及んでゐない所が、誠におめでたい。

その外、病氣療養法の事、料理食物の事、化粧服裝の事、身上相談の事など、以上三種の雜誌とも、皆な似たり寄つたりだ。

第四『女性日本人』。表紙の女の畫がこゝでは淺つさりした牡丹の花に代つてゐる。口繪にも色刷の畫がない。ごた〱した廣告も少い。丁度それだけ內容も淺つさりしてゐる。善く云へば上品、惡く云へば、少し間が拔けてる。けれども『甘泉の如き夫婦味』などゝいふ、赤地に白拔の表題で人の目を引かうとしてゐる所は、矢張り俗受の未練を持つた編輯振と見受けられる。

巻頭に『夫婦生活の向上』と題した短文が四號活字で入れてある。讀んで見ると、どうしても雪嶺さんの口授筆記らしいが、それにしては餘りの間に合せ物だといふ氣がする。『主張と批判』は、時事短評だが、前の三種に比べると、少し本氣に書いたらしい所が見える。然し水平運動を社會主義運動から遠ざけやうと骨を折つてゐる所などは、さすがに『日本人』だと思はせる。『夫婦生活の七級別』を讀むと、矢張り雪嶺さんのだなと直ぐに分る。たゞ『ます』とか『でせう』とかいふ、謂ゆる女らしい言葉を使つて、文章の調子が甚だまづくなつてゐる。內容は例の通り、可もなく不可もない。

『今の私のこゝろ』と題した石本靜枝さんの短文は、此の雜誌社が不徹底なコンヴェンショナルな態度を叱かれてゐる形で、ちよつと痛快だ。いはく『夫婦愛などゝ云つて擔ぎ廻るのは丁度、資本家の手先となつて勤儉貯蓄を說敎してあるく坊さんや、節約デーの宣傳をする御役人と同じ事です。』その外、佐々木味津三さんの『つまり私は大の家庭君主專制主義者である』とか、千葉龜雄さんの『これ

までの日本の夫婦關係が愛の結合を必要としなかつたのは、單に經濟上の保護者であり、被保護者の地位であることを安心して居たからである」とかいふ、前三種の雜誌には見られない、骨のある言葉がちよい〳〵ある。

「五月のお料理」などは、此の雜誌では申譯だけに載つてゐる。花圃女史は、和歌の選より外に現はれてゐない。要するに此の雜誌は中途ハンパだ。

第五『婦人公論』。表紙は「日本人」よりも濃厚な色でチュリップがかいてある然し內容はズット引きしまつて、盛りも澤山で、間のぬけた感じがしない。そして、うるさいような、きたないような廣告のないのが、第三種までの雜誌に比べて大いに心持よく感じられる。

先づ生田長江氏の『ブルジョアは幸福であるか』を讀む。本統の論文だ。女に讀ませる爲に、低級な人間の爲に、甘い柔らかな事を書くといふ態度のないのがうれしい。つまり此の雜誌から初めて女が人間として扱はれてゐる。『今日のブルジョアは彼等自身が資本主義經濟組織の爲めに、どれほど不幸にされてゐるかをほとんど全く氣附かないでゐる。そして此組織の解體が彼等を現在の不幸から救ひ出すものであることを思はないで、むしろ、それの此まゝなる存續か彼等の爲に願はしきものであることを迷信してゐる。』これが此の論文の趣旨である。そして筆者はカントと共に革命を不正と認めるが「さうした不正を餘儀なくし、もしくは挑發するところの社會的事情を、より大なる不正とし」その點においてカントと「袂を分つ」てゐる。けれども筆者は猶「所謂革命手段の避け得られる限りにおいて避けよと命ずるのが、私共の最高道德である」と云ひ、また「私共は革命を堪へ忍ぶかも知れないけれどもそれが最も悲しむべき、最もいとはしき事柄であることは、如何なる場合にも忘れ得ないであらう」と云ひ、そこに謂はゆる「徹底的人道主義」のやさしみを示してゐる。

長谷川如是閑氏の『險惡な時代に處する婦人の覺悟』も讀みごたえがある。『これからの女性は、享樂の女王として男子を征服するのでなく、社會的共働者として男子が犯すことの出來ない地位を占めることを生活の目的とするのだ』と云ひそして「紡績女工、小作女、電話交換手女教員」などが「傳統的のヒステリックの婦人生活から逃れて力強い生活能方とそれに伴ふ戰鬪力とを次第に女性的の心身に具備せしめつゝある」のだと說いてゐる。

三宅やす子氏の生活の「目標の維持」と、伊藤野枝氏の『自己を生かすことの幸福には、大ぶん面白味がある。雜巾賣

ひに三越白木へ『食ひ合せの話』などは・此の雜誌として寧ろ少し不調和に感じられる。『婦人公論』は『中央公論』より却つていゝようだ。

第六『女性改造』此の雜誌において初めて、女の顏と花とのない表紙に接した事は少しうれしい。然しそれでも矢張りハートの眞ふ中に蠟燭のともれた變な畫のかいてあるのは感心しない。

倉田百三氏の『人間主義と超克主義』といふ論文が卷頭にある。十七頁をブッとほしに行を改めずに何といふエライ見識だらう。とても讀む勇氣が出ない。何んでも『超人』とか『聖人』とか『豫言者』とかいふやうな事が書いてあるらしい。長谷川如是閑氏はこゝで、ロザ・ルクセンブルクを『奮鬪的女性のため』の『最もよい鏡』として推奬してゐる。山本宣治氏の『女性性教育』は、大膽で卒直で、皮肉で、痛快だ。『男教師は女生徒の前のモルモット』などは最もいゝ。それから『高級婦人雜誌』の批評が面白い。本來ロマンチックな青年秀才が抽象的假想的女性の啓發を圖る爲に試みた一種英雄的計畫はその端緒を發し、世の多くの同感者たる男の賛助後援に依つてその存在を續けるが、經營編輯者の豫定の退却、または女性化墮落によつて營利主義の惡影響を受け、または群集暗示の爲に美人畫を表紙に揭ぐるに至り、あるひは實質尨大な小說創作の貢獻によつてふやけ切つて、終に當初の存在理由を失ふのが、過去に多かつたのは殘念である。』

その外、布施勝治氏の『臺所から解放された勞農的主婦氣質』が少し面白い。室伏高信氏の『時評』の中の『職業婦人の運動』は、我々として見落してなるまい。『職業婦人運動の目標は二つある。資本家との戰で、男子に對する絕對的平等の要求『日本の婦人運動がその政治的運動から……』職業婦人運動にまで向はうとしつゝあることは、たしかに一つの進歩である。』

以上で六雜誌の批評を終つたが、終りに來て何だか少し氣のぬけた感じがある若し最後の一つが今一段の徹底味を示してゐてくれたら、此の批評文の結末も大いに振ふ事が出來たゞらうに。

新刊紹介

◇社會主義經濟學　堺利彥編

ホウイールドン（イギリス）の『經濟學のABC』と、昨年物故したアメリカのマルクス經濟學者メリ・マアシーの『勞働者の經濟學』とを合せて一册としたものである。社會主義經濟學の手ほどきとして便利な本である（價一圓五十錢三德社）

紙鐵砲



頭の使ひ場所

近頃、職業婦人が著しく殖へて來たことは、朝晩の電車の中を見ても分る。

職業婦人結構、獨立生活結構に違ひない。併し職業についたから、早速我れこそは一人前の人間でござひと言ふには、餘り氣も早すぎる。親の手こそ離れ、夫の心配こそ受けぬ、だが雇主と云ひ資本家と云ひ、皆、天晴れ職業婦人と納る私達の上に、大きくドッしり構へて、キユウ／＼としぼつて居るのである。

新歩したと云ふ婦人は、職業につき親兄弟夫の扶助を受けぬ事を自慢して居るそして大きい魔の手に、ジリ／＼と握りつぶされて居る事を知らぬ。もう一歩考へねばならぬ。もう一足突き進まねばならぬ。この資本主義社會が存續する限り到底眞の獨立生活は成りたゝぬのである家庭は娘の牢獄にして、社會は婦人の工場である。耳かくし並びに春着新調に心を腐らす前に何故に職業につかねばならぬかを考ふべきだ。全國の職業婦人！結合せよ。（三浦てる）

進みませう、職業婦人と云ふと一寸聞えもよく、見た所體裁は好いので、世の羨望の的たるお金持と同じ様な高い氣位になることは無理からぬ事でもあるのです。併しよく考へて見ると、人間の價値が半分しかない様に思つて居る女工さん達も私達も同じ様な原因と必要で働いて居るのです。そしてまた同じ様に資本家からしぼり取られて居るのです。奇麗に上品に構へてる私達は丁度味方をすてて敵に頓首百拜をして居る姿です。この『職業婦人』の讀者諸姉よ！　今は自分自身の利益のみを思ふ時ではありません。弱い者は弱い者同志、手に手を取つて目ざす敵が兜を拔ぐまで、それから私共が共々に喜ぶことの出來るまで行くべき道を進みませう！（はま子）

貧しい主婦　職業婦人問題解決のために御奮闘の段お祝申します。さて職業婦人の人はそれで大いに結構として、看却された職業をもつてゐない私たちは一體どうするんです。私たちには、職業に就いてゐてそれを恥しがつて秘してゐる人達の氣がしない。こんなに貧乏してゐる位なら職業に就いて、讀みたい雜誌の一册でも買ふ餘裕を作つたらどんなにいゝだらうと思ひながら、マッチ箱のやうな借家ながらも、自分の家といふものを持ち、夫を持ち、子を持つては、家を空けて働きに出る事も出來ない。そのくせ、はした金でも俸給といふものを持つて歸つて來る夫は家の內では男子專制の横暴振りです。自分の收入を持つてゐる職業婦人よりも、先決問題は、職業にすら就く事の出來ない貧しい主婦ではありませんか。（きく子）

原・稿・募・集・

論　文	十五枚位（四百字詰）
時事批判	長短隨意
創　作	二十枚位（同　前）
感想文	詩歌、その他飜譯など

締　切（毎月十日）

宛名は、職業婦人社内編輯部へ

編輯室より

◇皆さんの御力添へに依て、創刊號の生れたことは、非常にうれしいことであります、が編輯に不慣れなため、なかなか思ふやうには出來ません。どうか雜誌の內容や形式に就いて、どしどし御批評願ひます。

◇「職業婦人」は、社會問題解決のために協力しやうとしてゐる總ての人々のために生み出された機關なのであります。この雜誌が、志を同じうする總ての人々に依つて育まれ、利用されるやうにと願つております。

◇「職業婦人として のあなたの立場からみた、不平、不滿、抱負、喜び、希望といつたものに就いての御感想」に御回答下さいました方々に感謝いたします。みなさんの御返事をよんでいくうちに、私は新らしい力のわき上つてくるのを覺えました。私どもと同じ不平不滿を持ち、同じ必要に迫まられ、同じ理想に向はうとしてゐる多くの人のある事を知つたのであります。しかしこれが、一つ一つにちらばつてゐる時には、私どもの不平も不滿も理想も、一つの小さなそれとして、無意義に葬られてしまひます。けれど、それを一つに集めて、精練し、組織化して、やがて、大きな力强いものに成長させてゆくことは、實に理想社會への近道であります。

◇雜誌發刊につきまして、御援助下さつた諸兄姉及び、編輯上のいろんな御注意を寄せて下さつた方々に深く謝意を表します。

◇この三四日來、雨模樣の日ばかり續いてゐます、これがはれたら、急に暑さが襲つてくるのでせう、みなさんの御自愛を祈ります。（初）

定　價

一部	金二十錢	郵税五厘
半ヶ年	金一圓二十錢	不要
一ヶ年	金二圓四十錢	不要

廣告料

特等	一頁	四十圓
一等	一頁	三十圓
二等	一頁	二十圓
	半頁	十圓

四回以上割引あり

△御注文は總て前金で願ひます。
△御送金は振替に御拂込み下さい。
△郵券代用の際は一割增の事（五厘切手にて）
△誌代の領收書は別に差上げません雜誌發送を以つてこれにかへます。

大正十二年六月三日納本
大正十二年六月五日發行　（第一號）

編輯發行兼印刷人　東京市神田區表神保町十　矢部初子
印刷所　東京市牛込區余丁町三十一番地　文化印刷所
發行所　東京市神田區表神保町十　職業婦人社
電話長崎[illegible]
振替東京六四一六〇番

12—2—2


C 100V-60W
▼住宅に・
▼工場に・
マツダ
瓦斯入
電球